

弥生製品を インストール しよう

インストール・コンバートマニュアル

こんなときに
便利です!

製品のインストール、
アンインストール
方法を知りたい。

旧製品の
データを移行して
利用したい。

● OS に影響する操作を行う場合

インストールやコントロールパネルの操作など、OS に影響する操作を行うには管理者権限が必要となります。これらの操作を行う際に、「ユーザーアカウント制御」に関するメッセージが表示された場合は、メッセージ内容を確認し、[続行] ([はい]) または [実行] ボタンをクリックします。管理者アカウントのパスワードを要求された場合は、コンピューターの管理者にご確認ください。

● セットアップ中のエラーについて

製品のセットアップ中にエラーとなった場合に表示される主なメッセージについて「困ったときは」(P97)で解説しています。セットアップ作業中にエラーメッセージが表示された場合に参考にしてください。

● データベースのインストールにかかる時間について

データベースのインストールには、お使いの環境によって、30 ～ 90 分程度の時間がかかる場合があります。

【お断り】

- 本書および弥生販売のヘルプは、Microsoft Windows 7 の環境で作成しています。Microsoft Windows 10/8.1 では、画面および表記等が異なることがあります。
- 本書の解説では、弥生販売 19 プロフェッショナルの画面を使用しています。スタンダードの場合は「プロフェッショナル」を「スタンダード」に読み替えてください。

本書は、2018 年 8 月現在の製品仕様により作成しています。

そのため、本書の記載事項や画面などと、製品仕様が異なる場合も生じますことを、あらかじめご了承下さい。

また、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、弊社にご連絡下さい。

弥生製品のサポートは、サポート加入状況によって、サポート・サービスの対象となる機能や環境が異なります。詳細は『あんしん保守サポートガイド』でご確認ください。

Microsoft、Windows、Windows Server、SQL Server、Internet Explorer、Outlook、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、Acrobat、Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。

本文中、® マークは明記しておりません。

覚え書き(メモ)

次の内容をメモに記入して、大切に管理してください。

	記入欄
弥生製品登録番号 (P3)	- - -
データベースの sa パスワード (P27)	
サーバーの コンピューター名 (P19)	

※「サーバーのコンピューター名」は、弥生販売プロフェッショナルを追加購入した場合に使用します。



データベースの sa パスワードは、大切に保管してください

「データベースの sa パスワード」を記入したら、不正アクセスや情報漏えいなどを防止するために、必要のない他の人には知られないように保管してください。

次の順でセットアップの準備を進めてください

Step1

セットアップ前の
準備→(P3)



Step2

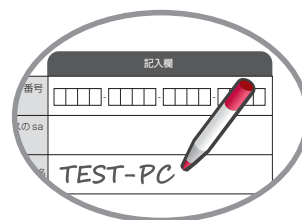
セットアップの流れ
→(P4)

セットアップ前の準備

～ セットアップ前には準備が必要です ～

確認しておくこと

セットアップする前に、製品のインストールに必要な項目や注意事項を確認します。
必要に応じて、確認した内容を忘れないように P2 の「覚え書き(メモ)」に記入していきます。



弥生製品登録番号の確認

弥生製品登録番号は、弥生製品をインストールするときに必要です。弥生製品をインストールする前に確認しておきましょう。

弥生製品登録番号は、下記の方法で確認することができます。

確認したら「弥生製品登録番号」を「覚え書き(メモ)」(P2)に転記してください。

- 店頭で購入した製品および弊社より発送した製品
ディスクのケースまたはパッケージに同梱されている文書で確認できます。
- 弊社より発送した製品
ディスクのケースまたはパッケージに同梱されている文書で確認できます。
- ダウンロード販売で購入した製品
購入時の電子メールで確認できます。

いずれの方法でも、ユーザー登録が完了している方は、次の手順で表示できるマイポータル(Web)で弥生製品登録番号を確認することができます。

デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして「弥生 マイポータル」を起動します。画面右上の「マイポータル(Web)」をクリックします。



弥生製品登録番号は、大切に保管しておいてください

弥生製品登録番号は、製品の初回起動時だけでなく、コンピューター移行時や再インストール時、次バージョンのインストール時にも必要です。大切に管理しておいてください。

必要なハードウェアとソフトウェア

弥生販売を使用するために、必要なハードウェアやソフトウェアを確認しておきましょう。

→必要なハードウェアとソフトウェア(P14)

データベースに関する注意

弥生販売では、SQL Server に「YAYOI インスタンス」という弥生製品用のデータベースを作成して、弥生販売のデータを保存します。データベースに関する注意事項を確認しておきましょう。

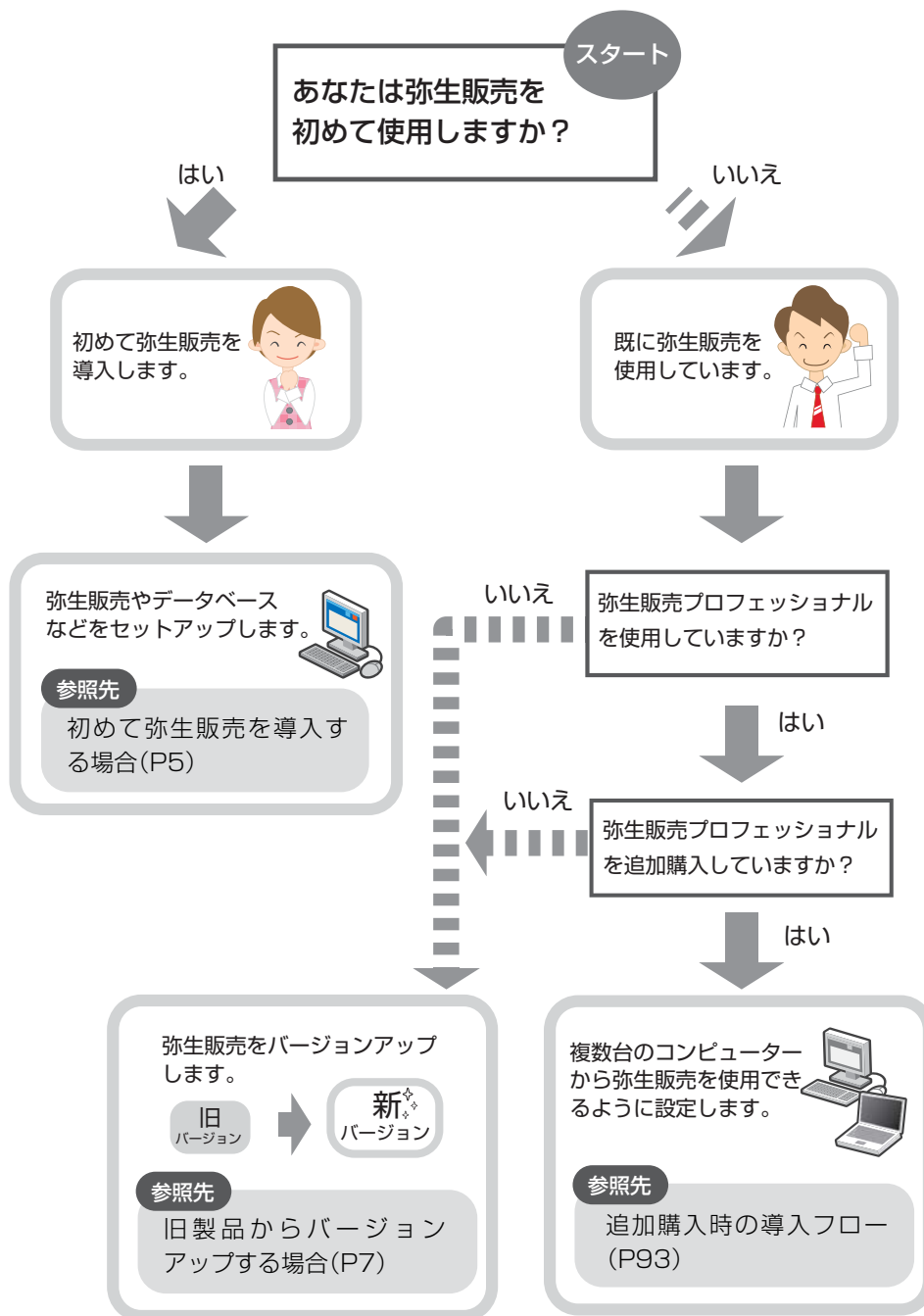
→データベースに関する注意(P17)

セットアップの流れ

～ セットアップの流れを確認しましょう ～

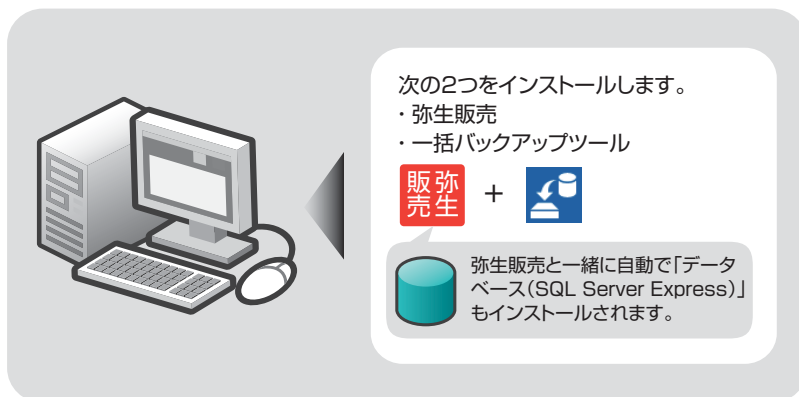
セットアップ方法の確認

弥生製品は、「初めて弥生販売を導入する場合」と「既に弥生販売を使用されている場合」とでセットアップの流れが異なります。ご自分がどのセットアップ方法に該当するか次のフローで確認しましょう。



1 初めて弥生販売を導入する場合

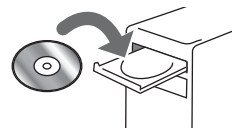
弥生販売を使用するには、コンピュータに「弥生販売」「一括バックアップツール」をインストールします。これらをインストール後、弥生販売の伝票や帳票を保存する事業所データを作成します。



👉 セットアップ手順

弥生販売の DVD-ROM をセット

弥生販売の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



一括バックアップツールのインストール → P38

一括バックアップツールをインストールします。一括バックアップツールとは、データベースに保存された複数の事業所データを、一括してバックアップすることができるツールです。また、曜日や時刻を指定して自動的にバックアップすることもできます。操作方法については、ヘルプを参照してください。

弥生販売のインストール → P22

弥生販売をインストールします。弥生販売をインストールすると、データベース(SQL Server Express)も一緒に自動でインストールされます。



弥生販売の起動 → P30

弥生販売 19 を起動して、ライセンス認証(P31)とユーザー登録(P37)(ユーザー登録画面が表示されない場合は、設定不要)を行います。

ライセンス認証は、初回の起動から 30 日以内に行ってください。

事業所データとデータベースの接続設定 → P42

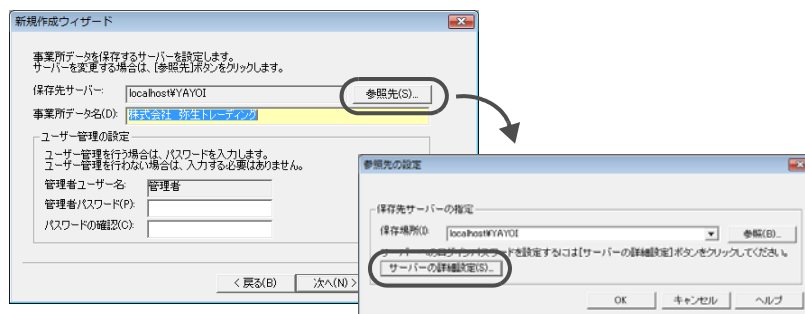
弥生販売の伝票や帳票を保存する事業所データを作成します。事業所データの作成時には、作成する事業所データとデータベースを接続する設定を行います。この設定を行うと、接続設定したデータベースに事業所データが保存されるようになります。

- 事業所データの作成 → P42

弥生販売を起動して、事業所データを作成します。事業所データの作成中に[保存先サーバー]の設定画面まで進んだら、データベースへの接続設定を行います。

- データベースへのログインパスワード(sa パスワード)を設定 → P46

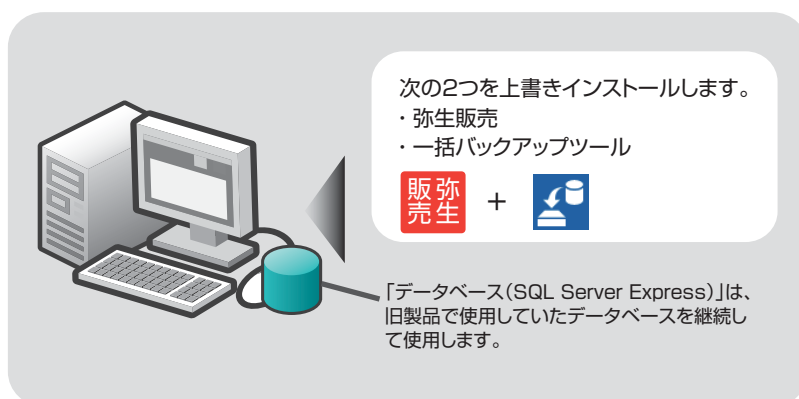
< [保存先サーバー]の設定画面 >



データベースへの接続設定には、sa パスワードの入力が必要です。sa パスワードとは、データベースのインストール時に指定したパスワードです。

2 旧製品からバージョンアップする場合

現在、弥生販売を使用しているコンピュータに「弥生販売」と「一括バックアップツール」を上書きインストールします。これらをインストール後、旧製品の「事業所データ」、「帳票レイアウト」＜弥生販売プロフェッショナルのみ＞、「環境設定」をコンバート(変換)して、新しい弥生販売で使用できるデータに置き換えます。



👉 セットアップ手順



弥生オンラインアップデートから弥生販売 19 をインストールした場合

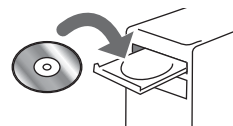
弥生販売の終了時に表示される[弥生オンラインアップデート]ダイアログから弥生販売 19 をインストールした場合は、DVD-ROM から弥生販売をインストールしていただく必要はありません(「弥生販売のインストール」の手順は不要)。

弥生販売 19 がインストールされているかどうかの確認は、次の手順で[バージョン情報]ダイアログを表示して行います。

デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。[弥生販売]メニューの[サポートツール]－[バージョン情報]をクリックします。

弥生販売の DVD-ROM をセット

弥生販売の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



一括バックアップツールのインストール → P38

一括バックアップツールをインストールします。一括バックアップツールとは、データベースに保存された複数の事業所データを、一括してバックアップすることができるツールです。また、曜日や時刻を指定して自動的にバックアップすることもできます。操作方法については、ヘルプを参照してください。



弥生販売のインストール → P22

弥生販売をインストールします。



弥生販売の起動 → P30

弥生販売 19 を起動して、ライセンス認証(P31)とユーザー登録(P37)(ユーザー登録画面が表示されない場合は、設定不要)を行います。

ライセンス認証は、初回の起動から 30 日以内に行ってください。



データのコンバート → P57

旧製品のデータをコンバート(変換)して、弥生販売 19 で使用できるデータに置き換えます。

事業所データとデータベースの接続設定が必要です

コンバートの途中で、コンバートする事業所データとデータベースの接続設定を行う必要があります。詳細は、「事業所データとデータベースの接続設定」(P42)を参照してください。

目 次

第 1 章	インストール前の確認	13
1	必要なハードウェアとソフトウェア	14
2	データベースに関する注意	17
2-1	弥生販売で使用するデータベースについて	17
2-2	データベースと YAYOI インスタンス	17
2-3	既に SQL Server がインストールされている場合	18
3	コンピューター名の確認	19
第 2 章	弥生販売のインストール	21
1	弥生販売のインストール	22
2	弥生販売の起動	30
3	ライセンス認証と認証解除	31
3-1	ライセンス認証について	31
3-2	ライセンス認証	32
3-3	ライセンス認証の解除	35
4	ユーザー登録	37
5	一括バックアップツールのインストール	38
第 3 章	データベースへの接続設定	41
1	データベースへの接続設定	42
1-1	事業所データとデータベースの接続設定	42
1-2	ログインパスワード(sa パスワード)の設定	46
2	クライアントからサーバーに接続する	49

第4章 旧製品からの移行 53

- 1 旧製品からの移行の流れ..... 54
- 2 コンバートの対象 55
 - 2-1 コンバート対象製品 55
 - 2-2 対象となるデータ 55
 - 2-3 環境設定コンバートの対象項目 56
- 3 データのコンバート..... 57
 - 3-1 コンバータの起動 57
 - 3-2 データのコンバート 58
- 4 環境設定のコンバート..... 62
 - 4-1 環境設定のコンバート 62
 - 4-2 複数ユーザーでの使用 66

第5章 やよいの見積・納品・請求書からの移行 67

- 1 移行の対象 68
 - 1-1 移行対象製品 68
 - 1-2 対象となるデータ 68
- 2 やよいの見積・納品・請求書データの移行..... 70
 - 2-1 やよいの見積・納品・請求書データの移行手順 70
- 3 対応付け一覧 80
 - 3-1 自社情報 80
 - 3-2 得意先台帳 81
 - 3-3 商品台帳 81

第6章 プログラムの修復と削除 83

- 1 弥生販売の修復と削除..... 84
 - 1-1 弥生販売の修復 84
 - 1-2 弥生販売の削除 86
- 2 データベースの削除..... 88
 - 2-1 データベース(YAYOI インスタンス)の削除の流れ 88
 - 2-2 データベース(YAYOI インスタンス)の削除 89

第 7 章	追加購入時の導入フロー	93
1	追加購入時のシステム構成	94
2	追加購入時のセットアップの流れ.....	95
2-1	セットアップ前の準備	95
2-2	セットアップの流れ	95
第 8 章	困ったときは	97
1	設定の詳細	98
1-1	環境の設定の詳細	98
1-2	インストール中の設定の詳細	107
2	エラーが表示された場合の対処方法.....	108
2-1	インストール	108
2-2	データの新規作成/コンバート/製品の起動/バックアップなど ...	109
第 9 章	付録	111
1	ネットワーク環境に関する注意.....	112
1-1	ネットワーク(LAN)環境について	112
1-2	データベースをインストールしたコンピューターの設定 ...	113
1-3	ネットワーク上のコンピューターの設定について	115
1-4	データベースについて	116
2	YAYOI インスタンスの確認と実行方法.....	117
3	SQL Server 2005 からの移行.....	118

1

インストール前の確認

弥生販売 19 を使用するためのシステムや注意事項を説明します。

1 必要なハードウェアとソフトウェア	14
2 データベースに関する注意	17
3 コンピューター名の確認	19

1 必要なハードウェアとソフトウェア

弥生販売を使用するには、次のハードウェアやソフトウェアが必要です。

日本語 OS	Microsoft Windows 10 / 8.1 / 7 ※Windows RT8.1 / 7 SP なしは除く
対応機種 (パソコン本体)	上記、日本語 OS が稼働するパーソナルコンピューター インテル Core 2 Duo 以上または同等の性能を持つプロセッサ
Web ブラウザー	Microsoft Internet Explorer または Microsoft Edge (必須) ※Web ブラウザーは、各 OS でサポートされている最新のバージョンをご利用ください。
メモリ	2GB 以上(64 ビット) / 1GB 以上(32 ビット)
ハードディスク	必須空き容量 350MB 以上(データ領域は別途必要) ※インストール時や製品動作時にはシステムドライブに一時ファイル領域が必要です。
動作に必要なソフトウェア	・本製品の動作には、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1、VC++2013 ランタイムが必要です。※ インストール済みでない場合は本製品のインストール時に同時にインストールされ、300MB 以上の空き容量が別途必要になります。インストール時に、再起動が必要になる場合があります。 ・ダウンロードした PDF マニュアル等を利用するには Adobe Acrobat Reader DC が必要です。
データベース	Microsoft SQL Server 2014 Express SP2 を本製品のインストーラーからインストールすることができます。 SQL Server 2014 Express SP2 をインストールする際の注意点 ・インストールするには、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 および、Microsoft .NET Framework 4.0 以降が必要です。付属の SQL Server 2014 Express SP2 のインストールを行う場合は、上記ソフトウェアもインストールされます。 ・インストールする際は、インストール先ドライブに 4.2GB 以上の空き容量が必要です。 ・TCP/IP などのネットワーク設定が正しく行われている必要があります。 ・1 事業所データの領域として最大 10GB まで使用可能です。 一括バックアップツールをインストールする際の注意点 ・インストールする際は、インストール先ドライブに20MB以上の空き容量が必要です。 ・一括バックアップツールの動作には、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1、VC++2013 ランタイムが必要です。
インターネット環境	インターネットに接続できる環境が必要です。

その他	- 日本語 OS について Windows 10 と記載されているものは、Windows 10 Home / Pro / Enterprise の略称です。 Windows 8.1 と記載されているものは、Windows 8.1 / Pro / Enterprise の略称です。(Windows RT8.1 は含みません) Windows 7 と記載されているものは、Windows 7 Ultimate / Enterprise / Professional / Home Premium / Starter の略称です。 インターナショナル版・日本語ランゲージパックは動作対象外です。 64 ビット OS での動作について WOW64 の環境で動作します。 - ディスプレイ 本体に接続可能で、上記日本語 OS に対応したディスプレイ 解像度: 1024×768 以上必須 / 1280×768(WXGA) 以上、 High Color(16 ビット) 以上を推奨 - マウス / キーボード 上記日本語 OS で使用可能なマウス / キーボード - 日本語入力システム 上記日本語 OS に対応した日本語入力システム ※対応している文字コードは、JIS コードの第 1 水準と第 2 水準です。 その他の文字コードについては、代替文字または、ひらがなでご入力ください。 - ディスクドライブ DVD-ROM ドライブ ※製品を DVD-ROM からインストールする場合に必要です。 - プリンター 上記日本語 OS に対応したプリンター ※インクジェットプリンターについては機種および使用できる専用用紙に一部制限があります。 ※ドットインパクトプリンターの場合は 15 インチ連続用紙が使用できるプリンターが必要です。 - Excel への書き出し機能を利用する場合 集計表などのデータを Excel に書き出す場合は、Microsoft Excel 2010 以降が別途必要です。 - メール送信機能を利用する場合 電子メールソフトを起動する場合は、Microsoft Outlook 2010 以降が通常使用する電子メールのプログラムとして設定されている必要があります。 ※Windows 10 / 8.1 標準メールでは「メール送信」機能が動作しません。 - Office 365 について Office 365 のオンライン版(Office Online)には対応していません。 - 住所録データの書き出し機能を利用する場合 ContactXML 形式 (Version 1.1a) に対応した製品が別途必要になります。 ※ContactXML は、はがき作成・宛名印刷ソフト等で広く利用できる標準データフォーマットです。 - 送り状データの書き出し機能を利用する場合 ヤマト運輸 送り状発行システム / B2 クラウド、佐川急便 送り状発行システム / e 飛伝 II、西濃運輸 送り状発行システム / カンガルー・マジック II、日本郵便 送り状印字ソフト / ゆうパックプリント R が別途必要になります。 - ネットワーク環境について ネットワーク(マルチ)での運用には対応していません。
-----	--

- 詳細については弥生ホームページをご覧ください。
- 弥生販売を使用するには、標準ユーザー(Users グループ)以上のユーザー権限が必要です。



印刷に関する注意

- 弥生販売で印刷を行った際に以下のような現象が発生した場合、お使いのプリンターまたは、プリンタードライバーが原因の可能性があります。最新のプリンタードライバーを入手してください。詳細はプリンターのマニュアルを参照するか、プリンターメーカーにお問い合わせください。
 - 罫線が欠落する、または罫線がずれる
 - 網かけが途中で途切れる、または塗りつぶされる
 - 特定の箇所だけ印字されずに抜けてしまう
 - 特定の文字列で文字化けが起こる
 - 印字位置がずれて次ページに送られてしまう
- ネットワーク上のプリンターを利用する場合の設定方法は、Windows のヘルプやマニュアルを参照してください。

PDF ファイルの作成には「Microsoft XPS Document Writer」が必要です

印刷ダイアログで「PDF ファイルの作成」を選択して PDF を作成するには、プリンターの一覧に「Microsoft XPS Document Writer」が登録されている必要があります。「Microsoft XPS Document Writer」がない場合は「プリンターの追加」で追加してください。プリンターの追加方法については Windows のヘルプを参照してください。

2 データベースに関する注意

2-1 弥生販売で使用するデータベースについて

弥生販売プロフェッショナル、弥生販売スタンダードでは、お使いのコンピューターに弥生販売をインストールして、伝票入力や帳票出力を行います。

弥生販売を使用するには、データベース(SQL Server)が必要です。弥生販売のデータは、データベースで管理します。

初めて弥生販売を導入する場合には、弥生販売のDVD-ROMから弥生販売をインストールすると、Microsoft SQL Server 2014 Express(以降 SQL Server 2014 Express と表記)というデータベースと一緒にインストールされます。

SQL Server 2014 のインストール前の確認事項

SQL Server 2014 Express を本製品の DVD-ROM からインストールできます。

- データ領域は、1 事業所データにつき最大 10GB です。
- 既に SQL Server を使用している場合は、データベースのインストール前に、名前付きインスタンス数が 16 個未満であることを確認してください。

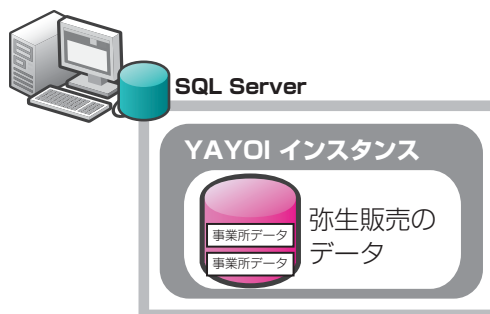
なお、事業所データは「YAYOI」インスタンスに作成されます。作成できる事業所データの数に制限はありません。

- <弥生販売プロフェッショナルを追加購入している場合>

TCP/IP などのネットワーク設定が正しく行われている必要があります。ネットワーク環境については P112 を参照してください。

2-2 データベースと YAYOI インスタンス

弥生販売のDVD-ROMからデータベースをインストールすると、「YAYOI インスタンス」という弥生製品用のデータベースが作成されます。弥生販売のデータはこの「YAYOI」インスタンスに保存されます。



2-3 既に SQL Server がインストールされている場合

既に SQL Server がインストールされているコンピューターに、弥生販売の DVD-ROM からデータベースをインストールすると次のようになります。

現在の環境	YAYOI インスタンスが存在する	YAYOI インスタンスが存在しない
SQL Server 2016	SQL Server 2014 をインストールせず、既存の YAYOI インスタンスをそのまま使用します。	SQL Server 2014 をインストールせず、既存の SQL Server に YAYOI インスタンスを作成します。
SQL Server 2014		
SQL Server 2012		
SQL Server 2008 R2		
SQL Server 2008		SQL Server 2014 をインストールして、YAYOI インスタンスを作成します。
SQL Server 2005	弥生 19 シリーズでは動作対応外です。 SQL Server 2014 に移行してください。	
SQL Server 2000 (MSDE 2000)		

3 コンピューター名の確認

コンピューター名の確認方法について説明します。

弥生製品の各設定時に、コンピューター名の入力または選択が、必要になることがあります。コンピューター名を確認しておきましょう。

☞ コンピューター名を確認する

1. データベースが保存されているコンピューター(サーバー)を起動します。

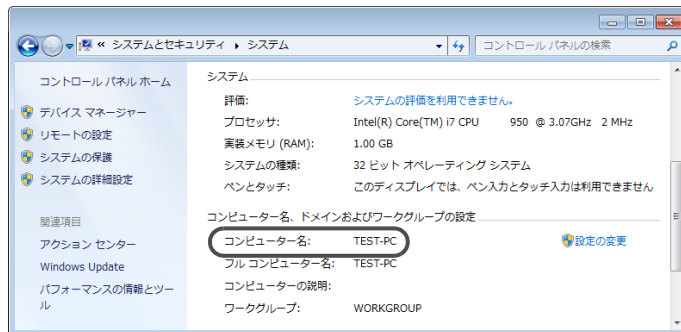
2. コントロールパネルを表示します。

Windows 10/8.1 の場合:[スタート]ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]ー[コントロール パネル]をクリックします。

Windows 7の場合:[スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]をクリックします。

3. [システムとセキュリティ](または[システムとメンテナンス]、[パフォーマンスとメンテナンス])をクリックして、[システム]をクリックします。

4. コンピューターの名前を確認します。



表示されたシステム画面の[コンピューター名]に表示されているのが、コンピューター(サーバー)の名前です。

5. 確認したコンピューター(サーバー)の名前を「覚え書き(メモ)」「(P2)へ記入しておきます。

例えば、[コンピューター名]に[TEST-PC]と表示されている場合の事業所データが保存されているコンピューター(サーバー)の名前は、「TEST-PC」です。

2

弥生販売のインストール

操作するコンピューターに弥生販売のプログラムをインストールします。

1 弥生販売のインストール	22
2 弥生販売の起動	30
3 ライセンス認証と認証解除	31
4 ユーザー登録	37
5 一括バックアップツールのインストール	38

1 弥生販売のインストール

弥生販売を操作するコンピューターに「弥生販売 19」をインストールします。



弥生オンラインアップデートから弥生販売 19 をインストールした場合
 弥生販売の終了時に表示される[弥生オンラインアップデート]ダイアログから弥生販売 19 をインストールした場合は、DVD-ROM から弥生販売をインストールしていただく必要はありません。([弥生販売のインストール]の作業は不要です。)
 弥生販売 19 がインストールされているかどうかの確認は、次の手順で[バージョン情報]ダイアログを表示して行います。
 デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生マイポータル]を起動します。[弥生販売]メニューの[サポートツール]→[バージョン情報]をクリックします。



新しいコンピューターへの移行について
 弥生販売(プログラム)や事業所データを、別のコンピューターに移行する方法については、弊社ホームページの「新しいコンピューターへの移行」を参照してください。
 弥生販売の DVD-ROM をお持ちでない方のために、プログラムを入手する方法も説明しています。
www.yayoi-kk.co.jp/ist/dealing/help/ikou.html

インストールする前に

弥生販売をインストールする前に、次の項目を確認してください。

- ハードディスクの空き容量**
 ハードディスクの空き容量が350MB以上必要(データ領域は別途必要)です。
 なお、Microsoft .NET Framework をインストールする場合は、別途300MB以上の空き容量が必要です。空き容量が足りない場合は、不要なファイルを削除するなどして空き容量を確保してからインストールしてください。
- インストールするユーザーの権限**
 弥生販売 19 のインストールには、管理者(Administratorsグループ)権限が必要です。
- 現在、弥生販売を使用している場合**
 弥生販売 19 をインストールしても、現在使用中のデータが削除されることはありません。
 ただし、インストール中のトラブルに備えて、インストール前に現在使用しているデータのバックアップファイルを作成してください。バックアップファイルの作成方法については、ご使用の製品のマニュアルを参照してください。
- データベースのインストール時間**
 初めて弥生販売 19 をインストールするときは、データベース「SQL Server 2014 Express」が自動的にインストールされます。
 お使いの環境によっては、データベースのインストールに 30 分から 90 分程度の時間がかかる場合があります。



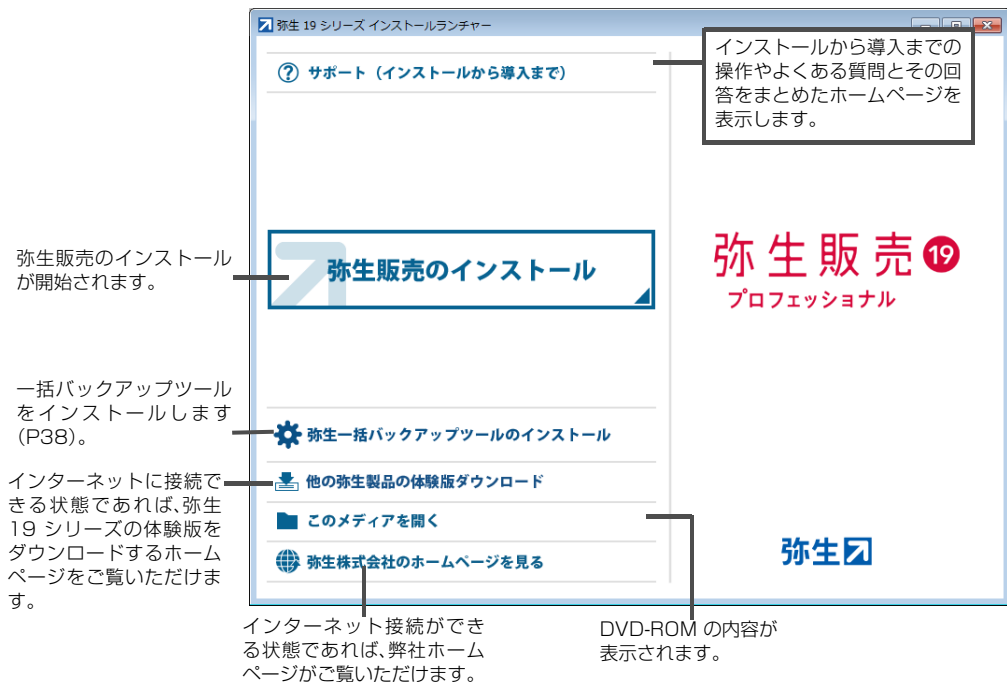
メモ

Windows 10/8.1 をご使用の場合はインストール時にインターネットへの接続が必要です

Windows 10/8.1 をご使用の場合、.NET Framework 3.5 SP1 は Windows Update を通じて提供されるため、インストール時にインターネットに接続している必要があります。

弥生 19 シリーズ インストールランチャー

DVD-ROM ドライブに弥生販売 19 の DVD-ROM をセットすると、[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されます。弥生販売はこの画面からインストールします。





[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されない場合
次の手順で弥生 19 シリーズ インストールランチャーを表示してください。

1. エクスプローラーを表示します。
デスクトップを表示して、タスクバーの[エクスプローラー]ボタンをクリックします。
2. 弥生販売 19 の DVD-ROM をセットしたドライブのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから[開く]をクリックします。
3. [yayoi19] ファイルをダブルクリックします。

弥生販売のインストール

☞ 弥生販売 をインストールする

1. 起動しているすべてのプログラムを終了します。
インストールを始める前に、すべてのプログラムを終了してください。特に、常駐プログラムが動作していると、正しくインストールできない場合があります。
2. DVD-ROM ドライブに弥生販売 19 の DVD-ROM をセットします。
[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されます。
3. [弥生販売のインストール]をクリックします。
コンピューターをチェックして、インストールが必要な項目と、そのインストール状況が表示されます。
4. 表示された[弥生シリーズセットアップ]画面で、[インストール開始]ボタンをクリックします。
表示される項目は、コンピューターの OS や環境により異なります。



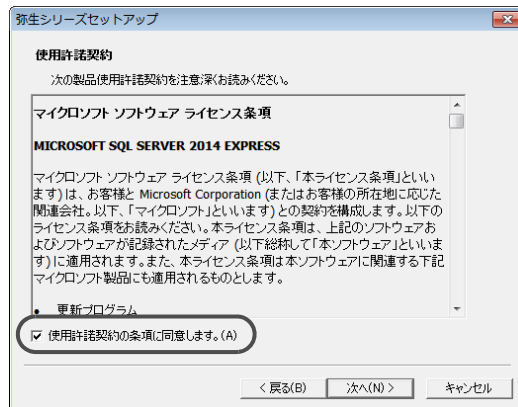


再起動を促すメッセージが表示された場合

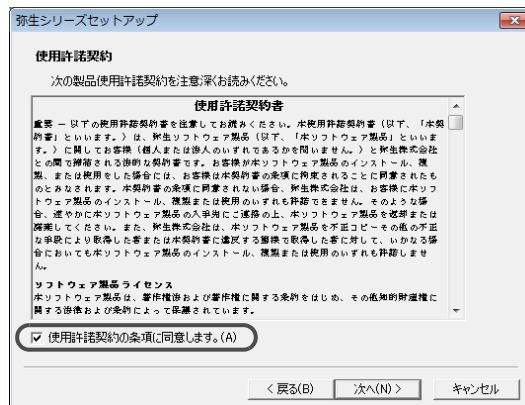
インストールの途中で再起動を促すメッセージが表示された場合は、DVD-ROM を取り出さずに指示に従って再起動し、インストール開始時と同じユーザーで Windows にログインしてください。ログイン後は[弥生シリーズセットアップ]画面が自動的に表示されるので、[インストール開始]ボタンをクリックして、インストールを再開します。

5. SQL Server 2014 Express がインストールされる場合、SQL Server 2014 Express の使用許諾契約画面が表示されます。

使用許諾契約内容を読み、内容に同意いただける場合は、[使用許諾契約の条項に同意します]にチェックを付けて、[次へ]ボタンをクリックします。



6. 弥生販売の使用許諾契約画面が表示されるので、使用許諾契約書を読み、内容に同意いただける場合は、[使用許諾契約の条項に同意します]にチェックを付けて、[次へ]ボタンをクリックします。



7. ユーザー名と会社名を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

両方の入力が必要です。

ここで入力したユーザー名と会社名はインストールで必要となる情報です。
弥生販売のデータでは使用されません。

弥生シリーズセットアップ

ユーザー情報
情報を入力してください。

ユーザー名、および会社名を入力してください。

ユーザー名(U):
弥生 次郎

会社名(C):
株式会社 弥生トレーディング

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. 弥生販売をインストールする場所(フォルダー)を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

インストール先を変更する場合は、[変更]ボタンをクリックしてインストールする場所を選択します。

弥生シリーズセットアップ

インストール先の選択
セットアップがファイルをインストールするフォルダーを選択してください。

このフォルダーにインストールする場合は、「次へ」をクリックしてください。別のフォルダーにインストールする場合は、「変更」をクリックします。

弥生販売 19のインストール先
C:\Program Files (x86)\Yayoi\

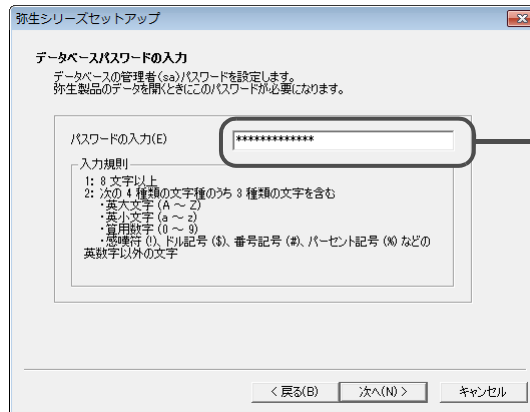
変更(C)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

9. SQL Server 2014 Express がインストールされる場合、データベースに関する設定を行います。「データベースの使用について」を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

10.「データベースパスワードについて」を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

11. データベースの管理者パスワード(sa パスワード)を設定します。



データベースの sa パスワードは、忘れないよう「覚え書き(メモ)」「(P2)」に記入するなどして、大切に管理してください。

ここで指定したパスワードが「sa パスワード」になります。sa パスワードは、弥生製品に付属の SQL Server 2014 Express では、後から変更や確認をすることはできません。また、弥生製品の各種設定で必要になります。大切に管理しておいてください。



パスワードの指定について

- 指定するパスワードについて
sa パスワードには、以下の「入力規則」を満たす 8 文字以上の文字列を指定する必要があります。

<入力規則>

次の 4 種類の文字種のうち 3 種類の文字を含むこと

- 英大文字 (A ~ Z)
- 英小文字 (a ~ z)
- 算用数字 (0 ~ 9)
- 感嘆符 (!)、ドル記号 (\$)、番号記号 (#)、パーセント記号 (%) などの英数字以外の文字

ここで指定するパスワードは弥生製品でも設定が必要になります。

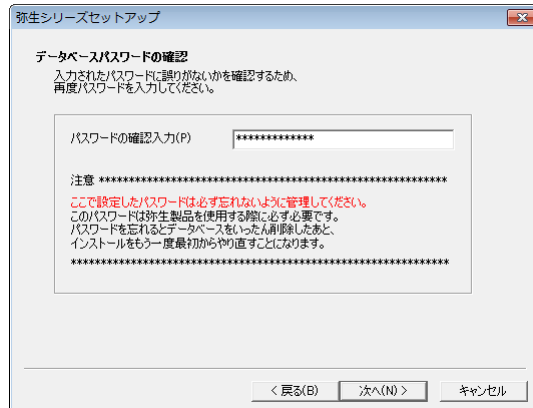
設定したパスワードを忘れないようにしてください。忘れた場合は、SQL Server 2014 Express の再インストールが必要な場合があります。

→ログインパスワード(sa パスワード)の設定(P46)

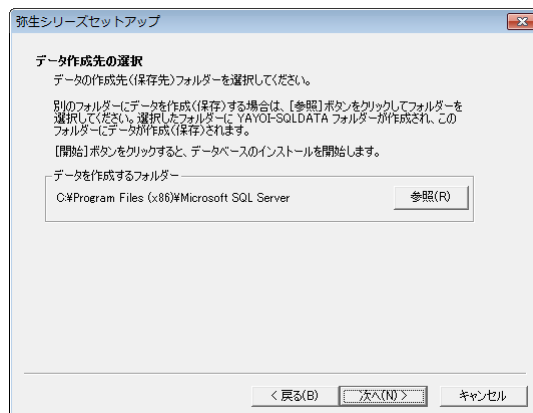
また、弥生製品に付属の SQL Server 2014 Express では、後からパスワードの変更や確認をすることはできません。

- パスワード指定後に必要な設定
パスワードの指定後に弥生製品での設定が必要になります。
→sa パスワードの指定後に必要な設定(P107)
- パスワードの指定要件が異なる場合
Windows の環境によっては、パスワードの指定要件が異なる場合があります。
→sa パスワードの指定要件が異なる場合(P107)

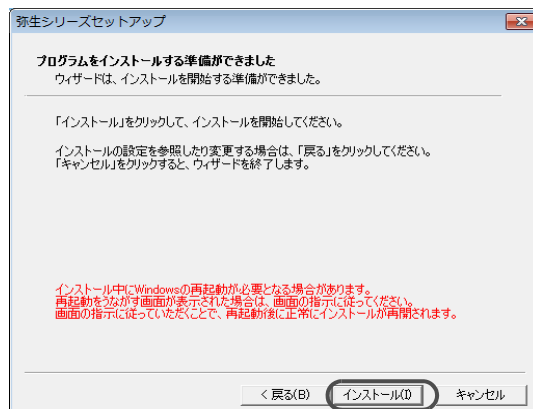
12. パスワードの確認画面が表示されたら、再度、同じ sa パスワードを入力して [次へ] ボタンをクリックします。



13. データベースの作成先を確認して [次へ] ボタンをクリックします。
作成先を変更する場合は [参照] ボタンをクリックします。



14. [インストール] ボタンをクリックしてインストールを開始します。
SQL Server 2014 Express や .NET Framework をインストールする場合、インストールが完了するまで 30 分から 120 分程度かかる場合があります。



15. インストールが終了したら、[弥生シリーズセットアップ]画面が表示されるので、[完了]ボタンをクリックします。



16. 再起動を促す画面が表示された場合は、必ず再起動してください。

17. DVD-ROM ドライブから DVD-ROM を取り出します。

DVD-ROM を取り出す前に、[完了]ボタンをクリックして[弥生シリーズセットアップ]画面を必ず閉じてください。



最初の起動時に行う設定が終わった後は

最初の起動時に行うライセンス認証(P31)やユーザー登録(P37)(ユーザー登録画面が表示されない場合は、設定不要)が終わった後は、事業所データの作成やコンバートを行います。

<初めて弥生販売を使用する方>

弥生販売のデータ(事業所データ)を作成します。ヘルプを参照してください。

<バージョンアップユーザーの方>

現在ご使用の弥生販売のデータは、コンバートして弥生販売 19 で使用することができます。

→旧製品からの移行(P53)

2 弥生販売の起動

弥生販売の起動

弥生販売は、弥生 マイポータルから次の手順で起動します。

デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。[ホーム]メニューの[使いはじめる]－[弥生販売]をクリックします。



弥生販売を初めて起動した場合

必要に応じて次の画面が表示されます。また、最初は起動に時間がかかることがあります。

- ・ [ライセンス認証] 画面 (P31)
- ・ ユーザー登録画面 (P37)

弥生 マイポータル

弥生 マイポータルでは、弥生製品の起動や、サポート(使い方・FAQ)などの Web サイトへのアクセスができます。また、接続設定やサポートのお問い合わせなどのサポートツールも利用できます。



セキュリティプログラムの警告メッセージが表示される場合

弥生製品の起動時にセキュリティプログラムの警告メッセージが表示された場合は、弥生製品に関するプログラムの通信を許可してください。許可するプログラムについては、以下の Web ページを参照してください。
support.yayoi-kk.co.jp/ydt/common/dealing/manual_01

「サポートツール」フォルダー

「サポートツール」フォルダーには、マニュアルやサンプルデータなどを開くためのショートカットが用意されています。このフォルダーは、次の手順で表示します。

デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。[弥生販売]メニューの[サポートツール]－[その他のサポートツール]をクリックします。

3 ライセンス認証と認証解除

3-1 ライセンス認証について

弥生販売をご使用いただくには、正規の弥生販売であることを確認するためにライセンス認証を行い、弥生販売のライセンスとご使用のコンピューターを結びつける必要があります。また、1 台のコンピューターにつき 1 つのライセンスが必要です。ライセンス認証の手続きは、弥生販売の初回起動時から 30 日以内に行ってください。

弥生販売のインストール後にライセンス認証を行わないと、以下の制限が発生します。

- 初回起動時から 30 日が経過すると、弥生販売を使用できなくなります。
- 起動時に[ライセンス認証]画面が毎回表示されます。

30 日を経過した場合でも、起動時に表示される[ライセンス認証]画面でライセンス認証を行うことにより、引き続き弥生販売を使用することができますが、ライセンス認証はインストール後すぐに行うようにしてください。



コンピューターを買い換える場合などには認証解除を行ってください

弥生販売をアンインストール(削除)する場合だけでなく、不具合などによりコンピューターをフォーマットする場合や、買い換えなどによりコンピューターを入れ替える場合も事前にライセンス認証の解除が必要です。解除を行ってから製品のアンインストール(削除)やフォーマット、新しいコンピューターへの入れ替えを行ってください。

→ライセンス認証の解除(P35)

3-2 ライセンス認証

ライセンス認証では、ライセンス認証サーバーへの接続のため、インターネットへの接続確認を必ず行います。インターネットを利用していない場合は、接続確認を行った後に表示される画面を経て、インターネットを使わない方法でライセンス認証を行うこともできます。

→インターネットに接続できない場合(P34)



メモ

弥生 ライセンス認証管理でライセンス認証を行う

弥生製品のライセンス認証は、弥生 ライセンス認証管理を次の手順で起動して行うこともできます。弥生 ライセンス認証管理では、複数の弥生製品のライセンス認証を連続的に行うこともできます。

デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。画面右上の歯車のアイコン(設定メニュー)から[弥生 ライセンス認証管理]をクリックします。



ライセンス認証を行う

1. [ライセンス認証]画面で[ライセンス認証を開始する]ボタンをクリックします。

ライセンス認証 (弥生販売 19)
Ver XX.X.X

弥生製品をご使用いただくには、正規の弥生製品であることを確認するためにライセンス認証を行う必要があります。



ライセンス認証を
開始する

ライセンス認証を行い、正規の弥生製品としての利用を開始する場合は、左のボタンをクリックしてください。



今は認証しない

今はライセンス認証を行わない、または体験版としての利用を開始する場合は、左のボタンをクリックしてください。

弥生製品登録番号の入力画面が表示されます。



メモ

弥生販売 11 以降がインストールされている場合

弥生販売 11 以降がインストールされている場合は、弥生製品登録番号などの情報を引き継ぎ、入力画面を表示せずにインターネットへの接続を行います。引き継いだ情報でライセンス認証が行えない場合は、改めて入力画面が表示されます。

2. 弥生製品登録番号などを入力します。

番号は、入力欄の下に表示されている「弥生製品登録番号の確認方法」で確認できます。

ライセンス認証 (弥生販売 19)

Ver XX.X.X

弥生製品登録番号を入力してください。

弥生製品登録番号

[弥生製品登録番号の確認方法](#)

店頭で購入した製品および弊社より発送した製品は、ディスクのケースまたはパッケージに同梱されている文書で確認できます。ダウンロード販売で購入した製品は、購入時の電子メールで確認できます。ユーザー登録が完了している製品や弊社より発送した製品は、[マイポータル \(Web\)](#) でも確認できます。

入力欄の下に、番号の確認方法が表示されます。

弥生販売の弥生製品登録番号を入力し、正しい番号であることが確認されると、「製品シリアル番号」の入力画面、「お客様番号」の入力画面、「入手方法の選択」画面のいずれかが表示されます。

入手方法の選択画面が表示された場合は、画面の説明を確認し、入手方法を選択すると選択に応じて、「製品シリアル番号」の入力画面または「お客様番号」の入力画面が表示されます。



⚠ が表示された場合

入力した番号に誤りがあると、入力欄が赤くなり、⚠ と説明文が表示されます。この場合は、入力内容を再確認してください。

3. [処理を開始する]ボタンをクリックします。

必要な情報をすべて入力すると[処理を開始する]ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、インターネットへの接続確認を行った上でライセンス認証サーバーに接続し、ライセンス認証が行われます。

ライセンス認証 (弥生販売 19)

Ver XX.X.X

弥生製品登録番号

製品シリアル番号

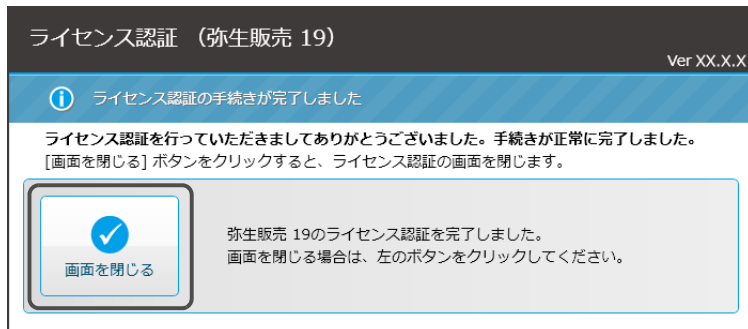
ライセンス認証の処理を開始する前に、製品登録番号と製品シリアル番号を再確認してください。再確認が終わったら、[処理を開始する] ボタンをクリックしてください。

処理を開始する

場合により、画面に表示される項目は異なります。

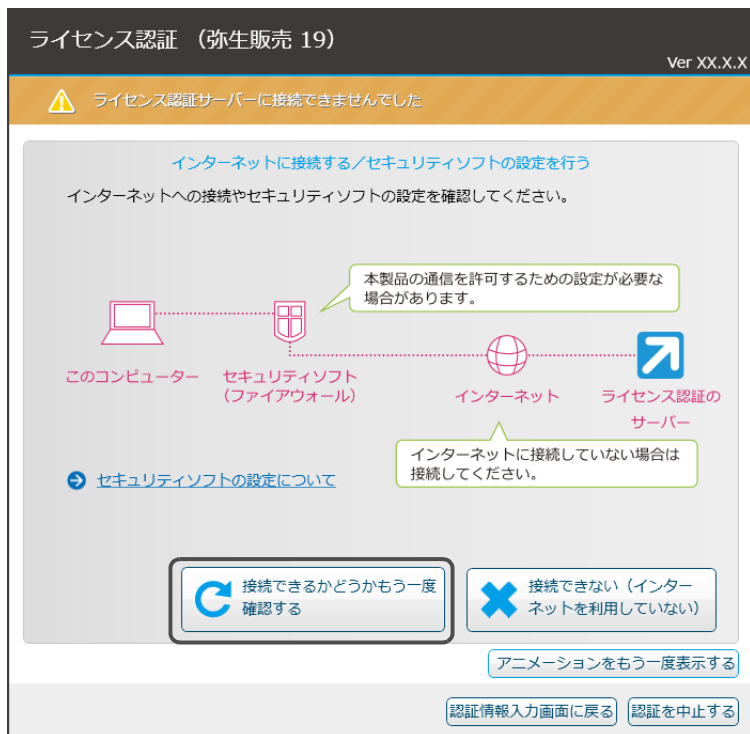
4. [画面を閉じる]ボタンをクリックします。

「ライセンス認証の手続きが完了しました」と表示されたら、[画面を閉じる]ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



インターネットに接続できない場合

ライセンス認証は、インターネットを通じてライセンス認証サーバーに接続します。サーバーに接続できない場合、[ライセンス認証サーバーに接続できませんでした]画面が表示されるので、画面の説明に従って、インターネットへの接続やセキュリティソフトの設定の確認を行い、[接続できるかどうかもう1度確認する]ボタンをクリックします。



[接続できない(インターネットを利用していない)]ボタンをクリックした場合

[ライセンス認証サーバーに接続できませんでした]画面で[接続できない(インターネットを利用していない)]ボタンをクリックした場合、認証方法を選択する画面が表示されます。画面の説明を参考に、認証方法を選択してください。

3-3 ライセンス認証の解除

弥生販売をアンインストール(削除)する場合には、事前にライセンス認証の解除が必要です。解除を行う前に弥生販売をアンインストール(削除)すると、別のコンピュータで弥生販売を使用できなくなります。

ライセンス認証の解除が必要なケース

ライセンス認証の解除は、以下のような場合に行います。これらの作業を行う前にライセンス認証の解除を行ってください。

- 弥生販売をアンインストール(削除)する場合
- コンピューターを買い換えて、弥生販売を新しいコンピュータにインストールする場合
- 弥生販売を他のコンピュータにインストールし直す場合
- Windows を再インストール(またはリカバリ)する場合
- コンピューターをフォーマット(初期化)する場合

ライセンス認証の解除を行う



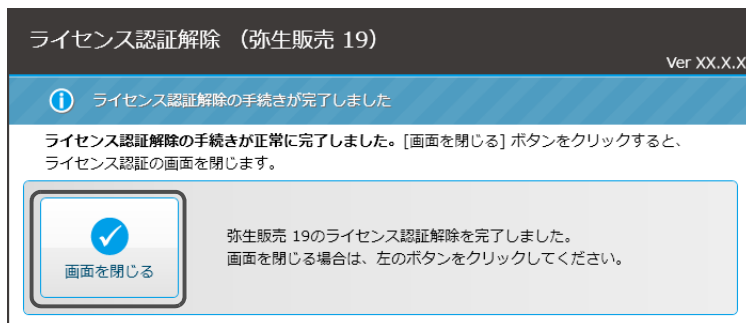
ライセンス認証を解除する前に

ライセンス認証の解除を行うと、弥生販売を使用できなくなります。ライセンス認証の解除を行う前には、事業所データのバックアップなど必要な作業を行ってください。

1. デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックします。
[弥生 マイポータル]が起動します。
2. 画面右上の歯車のアイコン(設定メニュー)から[弥生 ライセンス認証管理]をクリックします。
[弥生 ライセンス認証管理]が起動します。
3. [弥生販売 19] ボタン上に「認証済」と表示されていることを確認して、
[弥生販売 19] ボタンをクリックします。
[弥生販売 19] ボタン上に「未認証」と表示されている場合は、ライセンス認証は解除済みです。以降の手順は必要ありません。
4. [ライセンス認証を解除する] ボタンをクリックします。
ライセンス認証サーバーに接続し、ライセンス認証解除が行われます。

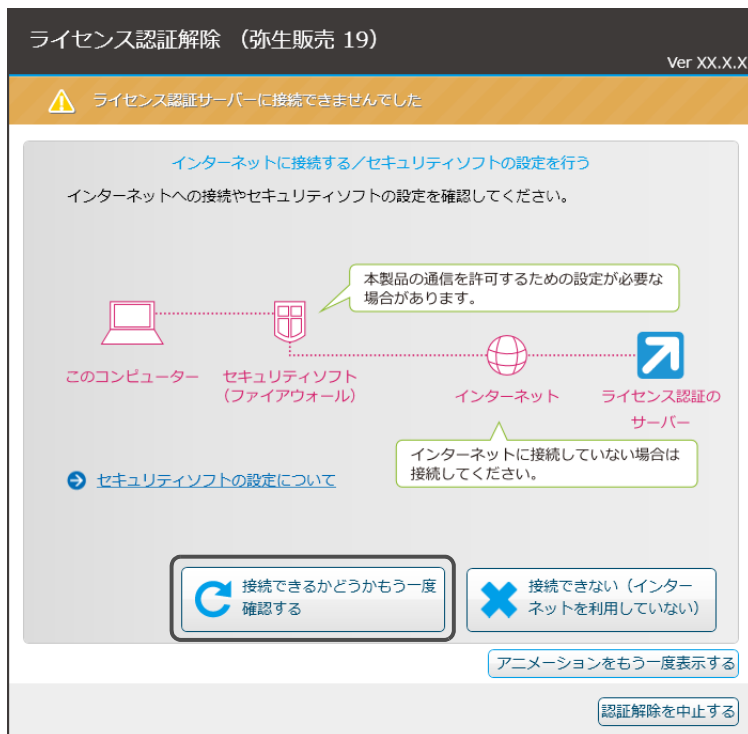
5. [画面を閉じる]ボタンをクリックします。

「ライセンス認証解除の手続きが完了しました」と表示されたら、[画面を閉じる]ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



インターネットに接続できない場合

ライセンス認証解除は、インターネットを通じてライセンス認証サーバーに接続します。サーバーに接続できない場合、[ライセンス認証サーバーに接続できませんでした]画面が表示されるので、画面の説明に従って、インターネットへの接続やセキュリティソフトの設定の確認を行い、[接続できるかどうかもう一度確認する]ボタンをクリックします。



[接続できない(インターネットを利用していない)]ボタンをクリックした場合

[ライセンス認証サーバーに接続できませんでした]画面で[接続できない(インターネットを利用していない)]ボタンをクリックした場合、認証解除方法を選択する画面が表示されます。画面の説明を参考に、認証解除方法を選択してください。

4 ユーザー登録

ユーザー登録が行われていない場合、ライセンス認証完了後や弥生販売の起動後にユーザー登録画面が表示されます。ユーザー登録は、インターネットへ接続できる場合はインターネットを通じて、接続できない場合は電話で行うことができます。弥生製品を複数で利用の場合は、製品ごとにユーザー登録が必要です。



ユーザー登録が不要な場合

弥生ストアで購入した製品や、あんしん保守サポートによって入手した製品をお使いの場合は、ユーザー登録がありません。



ユーザー登録を行う

1. 弥生販売を起動します(P30)。

ユーザー登録画面が表示されます。

※ [弥生ライセンス認証]画面が表示された場合は、ライセンス認証の手続きを行ってください(P31)。

2. 画面の指示に従ってユーザー登録を行います。



「今すぐユーザー登録を行う」ボタンをクリックして、ユーザー登録を開始します。

ユーザー登録完了後には、お客様番号などが発行され、「登録完了のお知らせ」が通知されます。



インターネットに接続していない場合

インターネットに接続していないなどの理由で弥生のサーバーに接続できない場合、ユーザー登録の状態が確認できないため、ユーザー登録画面が一定回数の起動時に表示されます。また、この場合はユーザー登録画面に電話でユーザー登録を行う方法の案内が表示されます。

5 一括バックアップツールのインストール

一括バックアップツールは、サーバーのデータベース(YAYOI インスタンス)のデータをまとめてバックアップするためのツールです。

一括バックアップツールの操作方法についてはヘルプを参照してください。

一括バックアップツールをインストールするには、データベースがインストールされているコンピュータに Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 がインストールされている必要があります。



一括バックアップツールがインストール済みの場合

旧バージョンの一括バックアップツールを使用している場合は、新しいプログラムへ更新する必要があります。弥生 19 シリーズの一括バックアップツールを再度インストールして、最新のプログラムへバージョンアップしてください。



一括バックアップツールをインストールする

一括バックアップツールをインストールするには、ハードディスクの空き容量が 20MB 以上必要です。一括バックアップツールは、データベースをインストールしたコンピュータにインストールします。

1. 起動しているすべてのプログラムを終了します。

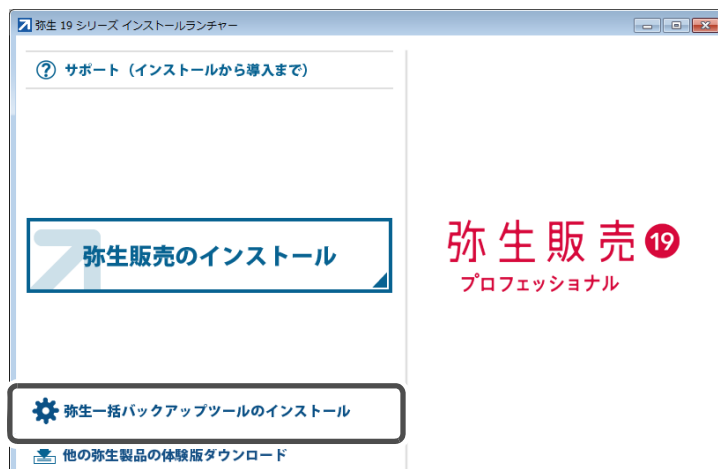
インストールを始める前に、すべてのプログラムを終了してください。特に、常駐プログラムが動作していると、正しくインストールできない場合があります。

2. サーバー(データを保存するコンピュータ)の DVD-ROM ドライブに弥生販売 19 の DVD-ROM をセットします。

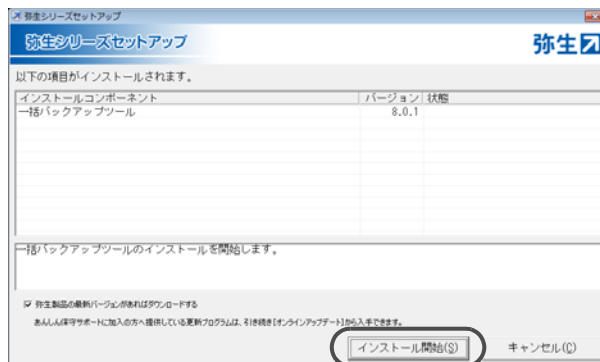
[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されます。

3. [弥生一括バックアップツールのインストール]をクリックします。

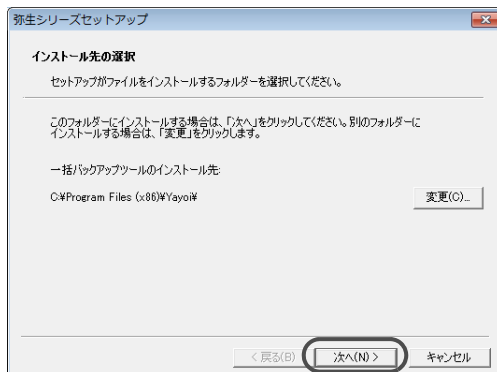
[弥生シリーズセットアップ]画面が表示されます。



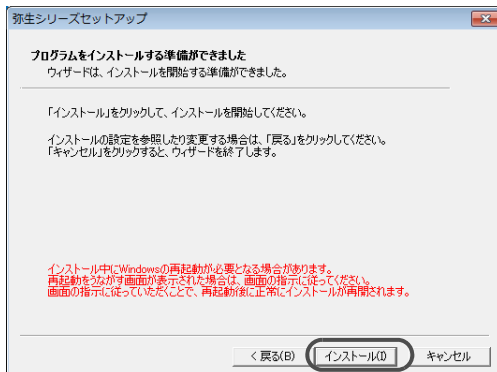
4. 表示された[弥生シリーズセットアップ]画面で、[インストール開始]ボタンをクリックします。



5. 一括バックアップツールをインストールする場所(フォルダー)を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
インストール先を変更する場合は、[変更]ボタンをクリックしてインストールする場所を選択します。



6. [インストール]ボタンをクリックしてインストールを開始します。



7. [弥生シリーズセットアップ]画面が表示されるので、[完了]ボタンをクリックします。
再起動を促す画面が表示された場合は、必ず再起動してください。

8. DVD-ROM ドライブから DVD-ROM を取り出します。
DVD-ROM を取り出す前に、[完了]ボタンをクリックして[弥生シリーズセットアップ]画面を必ず閉じてください。

3

データベースへの接続設定

弥生販売を使用するには、弥生販売の事業所データを保存するデータベースを指定して、事業所データとデータベースを接続する必要があります。事業所データとデータベースの接続設定について説明します。

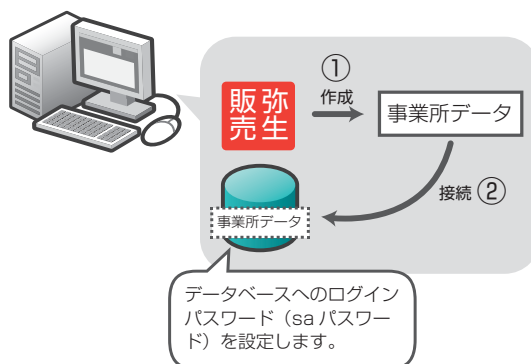
- 1 データベースへの接続設定 42
- 2 クライアントからサーバーに接続する 49

1 データベースへの接続設定

1-1 事業所データとデータベースの接続設定

弥生販売を使用するには、始めに弥生販売の伝票や帳票を保存する事業所データを作成します。

事業所データの作成では、事業所データを保存するデータベースと接続設定を行います。接続設定を行うと接続したデータベースに事業所データが保存されるようになります。



次のいずれかの方法で、事業所データとデータベースを接続します。

導入ケース	方法
初めて弥生販売を導入する場合	事業所データの新規作成 (P43)
旧製品からご利用されている場合	- 事業所データの新規作成 (P43) - 旧製品から事業所データをコンバート (P44) - 事業所データのバックアップファイルを復元する (P45)

事業所データの新規作成

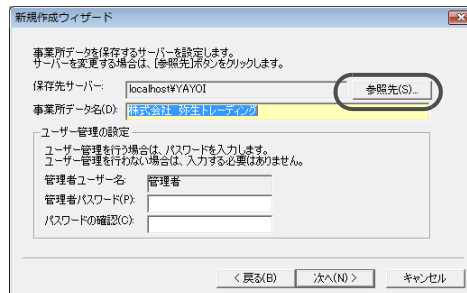
 事業所データを新規作成して、接続設定する

1. 弥生販売を起動します(P30)。
2. クイックナビゲータの[スタート]カテゴリの[データの新規作成]をクリックするか、[ファイル]メニューの[新規作成]をクリックします。
[新規作成ウィザード]が表示されます。[次へ]ボタンをクリックして次へ進めます。

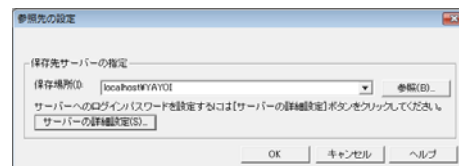


事業所データの新規作成についての詳細は、別冊『操作マニュアル』を参照してください。

3. 表示される画面の指示に従って、[保存先サーバー] の設定画面まで進めます。
[参照先] ボタンをクリックします。



4. [参照先の設定] ダイアログが表示されます。

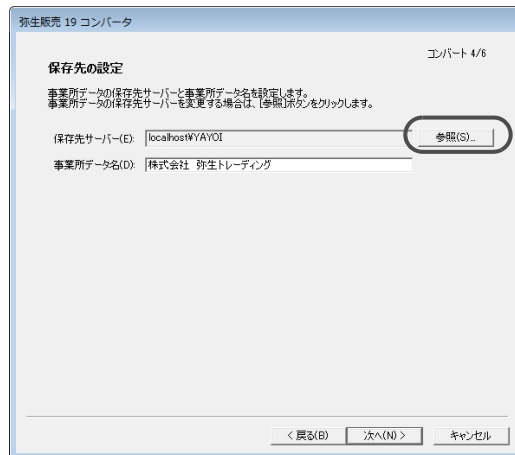


以降の操作は、「ログインパスワード(sa パスワード)の設定」(P46)の手順を行ってください。

旧製品から事業所データをコンバート

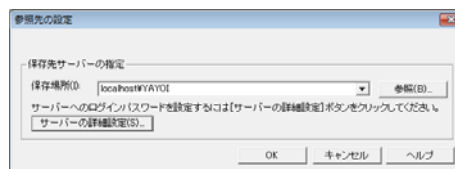
👉 事業所データをコンバートして、接続設定する

1. 弥生販売が起動している場合は、終了します。
2. 弥生販売 19 コンバータを起動します。
起動方法は、「コンバータの起動」(P57)を参照してください。
3. [変更対象の選択]画面で[事業所データを変換する]にチェックが付いていることを確認して、コンバートするデータの種類の種類を選択します。
「弥生販売データ」または「弥生販売バックアップファイル」からコンバートする事業所データを選択します。
4. 「弥生販売データ」を選択した場合は[データの選択]画面、「弥生販売バックアップファイル」を選択した場合は[保存先の設定]画面で[参照]ボタンをクリックします。



事業所データのコンバートの詳細は、「データのコンバート」(P57)を参照してください。

5. [参照先の設定]ダイアログが表示されます。



以降の操作は、「ログインパスワード(sa パスワード)の設定」(P46)の手順を行ってください。

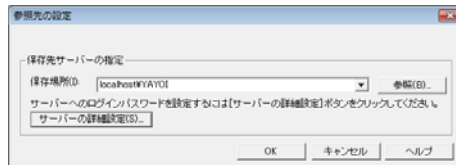
事業所データのバックアップファイルを復元する

👉 バックアップファイルを復元して、接続設定をする

1. 弥生販売が起動していない場合は、弥生販売を起動します。
2. [ファイル]メニューの[バックアップファイルの復元]をクリックします。
[バックアップファイルの復元]ダイアログが表示されます。
3. [参照]ボタンをクリックして、復元するバックアップデータを選択します。
バックアップファイルの復元方法については、ヘルプ「事業所データのバックアップ」を参照してください。
4. [復元先の指定]画面で[参照]ボタンをクリックします。
[参照先の設定]ダイアログが表示されます。



5. [参照先の設定]ダイアログが表示されます。



以降の操作は、「ログインパスワード(sa パスワード)の設定」(P46)の手順を行ってください。

1-2 ログインパスワード(sa パスワード)の設定

事業所データとデータベースを接続するには、[参照先の設定] ダイアログで、事業所データの保存先となるデータベースを指定して、データベースのインストール時に設定した sa パスワードを入力します。



準備しておきましょう

手順を行う前に、次の内容を準備しておきましょう。
「覚え書き(メモ)」(P2)も参考にしてください。

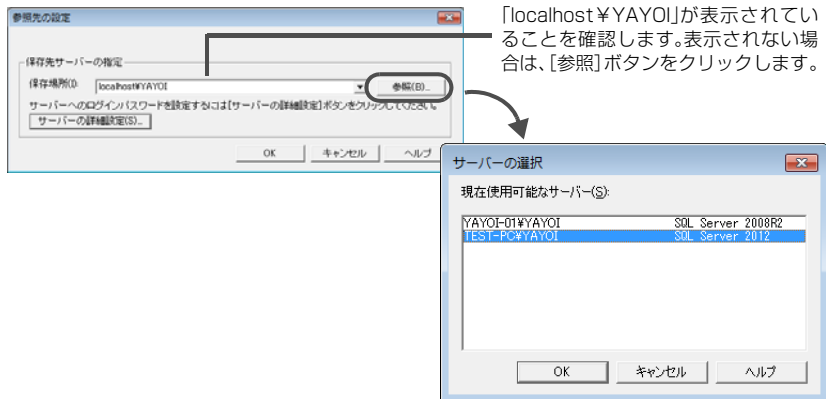
- コンピューター名(データベースをインストールしたコンピューター)(P19)
- データベースの sa パスワード(P27)
データベースのインストール時に設定したパスワード

1. [参照先の設定] ダイアログを表示します。

2. [保存場所] に「localhost¥YAYOI」が表示されていることを確認します。

「localhost¥YAYOI」が表示されない場合は[参照] ボタンをクリックして、[サーバーの選択] ダイアログで選択します。

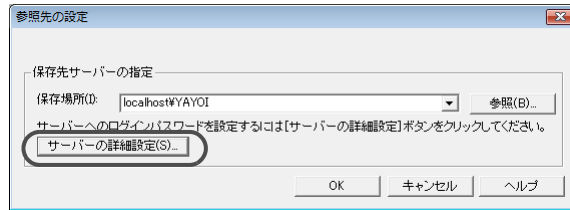
選択するサーバーが表示されない場合は、[保存場所] に「localhost(またはコンピューター名)¥YAYOI」を直接入力してください。



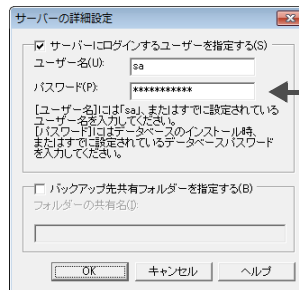
コンピューター名の確認方法

コンピューター名を確認する方法については、「コンピューター名の確認」(P19)を参照してください。

3. [サーバーの詳細設定] ボタンをクリックします。
[サーバーの詳細設定] ダイアログが表示されます。

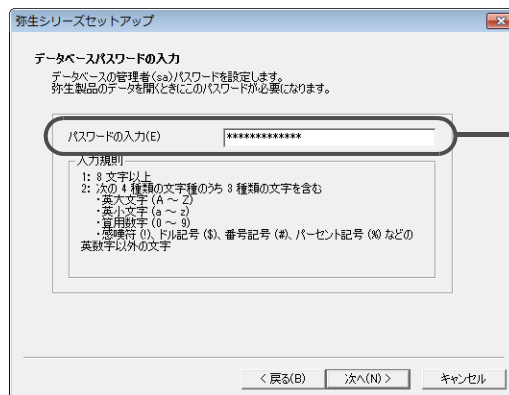


4. データベースへのログインユーザーを設定します。
[サーバーにログインするユーザーを指定する] にチェックを付けて、指定するユーザー名と、ログイン時のパスワードを入力します。
[ユーザー名] に「sa」、または既に設定されているユーザー名を入力し、データベースのインストール時に指定した sa パスワード、または既に設定されているデータベースパスワードを入力します。



重要
下記の画面で設定したパスワード
をここに入力します。

弥生販売のインストールで
データベースの管理者パスワード(sa パスワード)を設定する画面
(→ P27 の手順 11)
※「覚え書き(メモ)」(P2)も参考にしてください。



5. 設定が終わったら [OK] ボタンをクリックします。
6. [参照先の設定] ダイアログの [OK] ボタンをクリックします。
引き続き、事業所データを設定してください。

**メモ**

エラーメッセージが表示された場合

[参照先の設定]で正しい[保存場所]を入力し、[サーバーの詳細設定]で正しい[パスワード]を入力したにもかかわらず、「サーバーにアクセスできませんでした。」というメッセージが表示された場合は、エラーが表示された場合の対処方法の「[サーバーにアクセスできませんでした。]と表示された場合」(P109)を参照して確認を行ってください。

2 クライアントからサーバーに接続する

＜弥生販売プロフェッショナルを追加購入した場合のみ＞

事業所データとデータベースの接続設定(P42)が終了した後は、操作するコンピューター(クライアント)から、サーバーのデータベースに保存された事業所データを参照させる設定を行います。

サーバーのデータベースに接続して、データベースに保存されている事業所データを開くと、複数台のコンピューターから同時に事業所データを操作できるようになります。



準備しておきましょう

手順を行う前に、次の内容を準備しておきましょう。
「覚え書き(メモ)」(P2)も参考にしてください。

- コンピューター名(データベースをインストールしたコンピューター)(P19)
- データベースの sa パスワード(P27)
データベースのインストール時に設定したパスワード



クライアントからサーバーのデータベースに接続して、事業所データを開く

1. 弥生販売を操作するコンピューターを起動します。
2. 弥生販売を起動します(P30)。
 - ※ サーバーにアクセスできない(設定されていない)などのエラーメッセージが表示された場合は、[OK]ボタンをクリックしてください。
3. [ファイル]メニューから[開く]をクリックします。
4. [事業所データの選択]ダイアログの[参照先]ボタンをクリックします。
[参照先の設定]ダイアログが表示されます。
 - ※ サーバーにアクセスできない(設定されていない)などのエラーメッセージが表示された場合は、[OK]ボタンをクリックしてください。

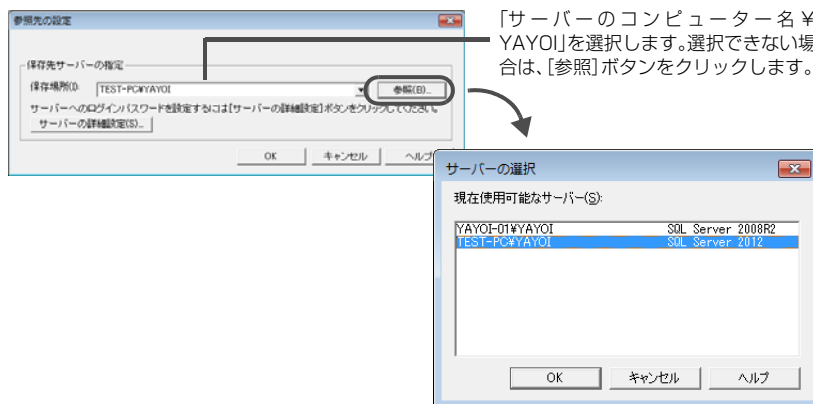


5. [保存場所]で「サーバーのコンピューター名¥YAYOI」を選択します。

サーバーのコンピューター名は、「コンピューター名の確認」(P19)でメモをしておいたコンピューターの名前です。

例えば、メモをしておいたコンピューターの名前が「TEST-PC」の場合、[保存場所]は「TEST-PC¥YAYOI」になります。

選択するサーバーが表示されない場合は[参照]ボタンをクリックして、[サーバーの選択]ダイアログで選択します。



選択するサーバーが表示されない場合

[サーバーの選択]ダイアログの一覧にサーバーが表示されない場合は、サーバーにデータベースがインストールされていることをネットワーク管理者に確認してください。

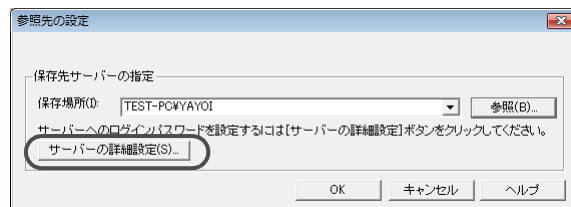
- インストールされている場合
[参照先の設定]ダイアログの[保存場所]に「サーバーのコンピューター名¥YAYOI」を直接入力してください。
- インストールされていない場合
サーバーにデータベースをインストールしてください。

サーバーのコンピューター名の確認方法

サーバーのコンピューター名を確認する方法については、「コンピューター名の確認」(P19)を参照してください。

6. [サーバーの詳細設定]ボタンをクリックします。

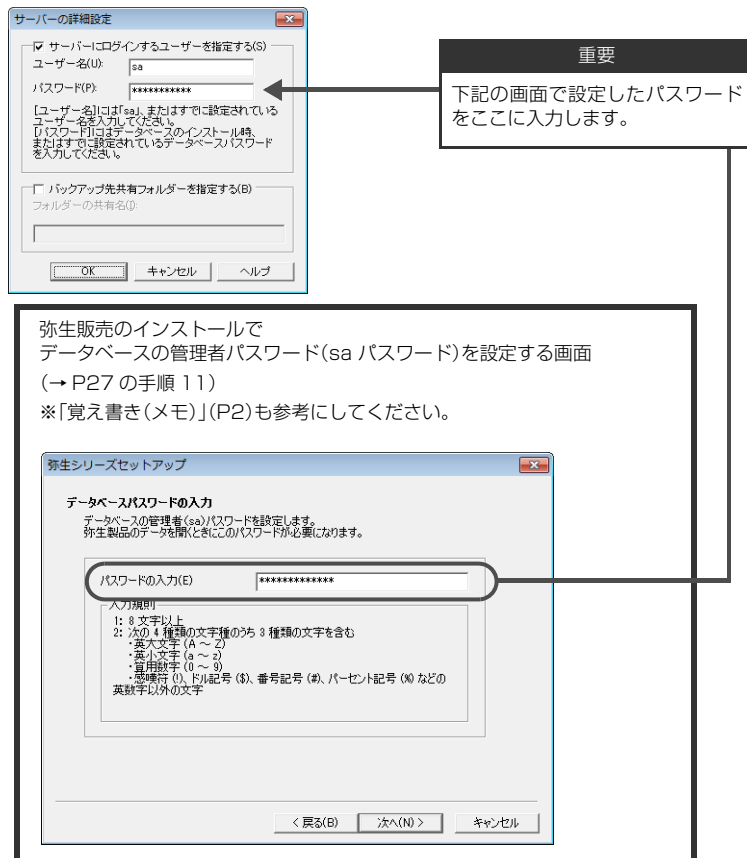
[サーバーの詳細設定]ダイアログが表示されます。



7. データベースへのログインユーザーを設定します。

[サーバーにログインするユーザーを指定する]にチェックを付けて、指定するユーザー名と、ログイン時のパスワードを入力します。

[ユーザー名]に「sa」、または既に設定されているユーザー名を入力し、データベースのインストール時に指定した sa パスワード、または既に設定されているデータベースパスワードを入力します。



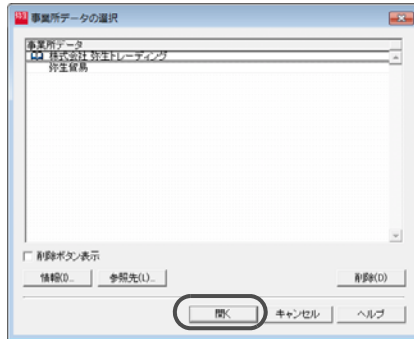
8. 設定が終わったら[OK]ボタンをクリックします。

9. [参照先の設定]ダイアログの[OK]ボタンをクリックします。



エラーメッセージが表示された場合について

「サーバーにアクセスできませんでした。」というエラーメッセージが表示された場合は、いくつかの原因が考えられます。対処方法については、エラーが表示された場合の対処方法の「[サーバーにアクセスできませんでした。]と表示された場合」(P109)を参照してください。

10.事業所データを選択し、[開く]ボタンをクリックします。**11.[ログイン]ダイアログが表示されます。ユーザー名を選択し、パスワードを入力して[OK]ボタンをクリックします。**

管理者にパスワードを設定していない、または、他のユーザーを登録していない場合は、[ログイン]ダイアログは表示されません。



4

旧製品からの移行

旧製品の弥生販売の事業所データを弥生販売 19 で使用するには、データをコンバート(変換)する必要があります。

この章では、旧製品の弥生販売のデータをコンバートする手順について説明します。

1 旧製品からの移行の流れ	54
2 コンバートの対象	55
3 データのコンバート	57
4 環境設定のコンバート	62

1 旧製品からの移行の流れ

旧製品からの移行の流れ

弥生販売のセットアップ → P22

旧製品からの移行を実行する前に、あらかじめ弥生販売のインストールを行っておきます。セットアップ方法については、セットアップの流れにそって行ってください。



データのコンバート（変換） → P57

旧製品のデータ(事業所データ、帳票レイアウトデータ、環境設定)を弥生販売 19 の形式にコンバート(変換)します。データのコンバートの流れは次のとおりです。

1. コンバート前の確認 → P55

コンバート対象製品の確認を行います。

2. 旧製品のデータを準備する

3. データのコンバートを行う → P57

手順に従って、データのコンバートを行います。

2 コンバートの対象

2-1 コンバート対象製品

弥生販売 18、17、16、15、14、13、12 の下記の製品で使用していたデータをコンバートすることができます。

- 弥生販売プロフェッショナル
- 弥生販売スタンダード

2-2 対象となるデータ

コンバートの対象となるデータの種類は以下のとおりです。

- 事業所データ(弥生販売データ、弥生販売バックアップファイル)
- 帳票レイアウトデータ(弥生販売 11 形式)(プロフェッショナルのみ)
- 環境設定



事業所データのバックアップファイルをコンバートする場合

バックアップファイルを使用してコンバートを行う場合は、次のことに注意してください。

- 旧製品で最新の事業所データのバックアップファイルを作成します。
- コンバートを行う最新のバックアップファイルの保存場所を確認しておきます。P59 手順 5 で、確認した保存場所を指定します。
- バックアップファイルを USB メモリなどの外部メディアに保存している場合は、対象となるメディアをあらかじめコンピューターにセットしてください。

帳票レイアウトデータ(弥生販売 11 形式)と環境設定のコンバート

帳票レイアウトデータ(弥生販売 19 プロフェッショナルのみ)や環境設定のコンバートを行わないと、旧製品では正常に印刷できた伝票などが、弥生販売 19 で印刷すると印刷位置がずれることがあります。

なお、帳票レイアウトデータのコンバートは、帳票レイアウト(弥生販売 11 形式)を使用していた場合に行います。



複数のコンピューターで帳票レイアウトデータを使用する場合

帳票レイアウトデータは、レイアウトデータを作成、編集したコンピューターに保存されます。異なるレイアウトデータが複数のコンピューターに保存されている場合は、インポート、エクスポート機能を使用してレイアウトデータを 1 台のコンピューターにまとめてからコンバートしてください。

また、コンバートしたレイアウトデータを他のコンピューターで使用する場合は、次の手順でレイアウトデータをコピーします。

1. レイアウトデータのコンバートを実行したコンピューターで、コンバートしたレイアウトデータをバックアップします。
2. 弥生販売を使用するすべてのコンピューターで、手順 1 で作成したバックアップファイルを復元します。
3. 画像を配置したレイアウトデータがある場合は、画像をコピーします。

帳票レイアウトデータ(弥生販売 11 形式)のインポートやエクスポート、バックアップと復元については、ヘルプや帳票レイアウトのヘルプを参照してください。

帳票レイアウトデータを別のコンピューターの弥生販売 19 へコンバートする場合
旧製品の帳票レイアウトデータを別のコンピューターの弥生販売 19 にコンバートする場合は、移行元のコンピューターで弥生販売 19 にコンバートして帳票レイアウトデータのバックアップを行い、移行先のコンピューターでバックアップファイルを復元します。

2-3 環境設定コンバートの対象項目

環境設定コンバートで移行される設定内容は次のとおりです。

環境設定	[環境設定] ダイアログで設定した情報
印刷の設定	[印刷] ダイアログ、印刷の[書式の設定] ダイアログで設定した情報
項目設定	各種伝票の[項目設定] ダイアログで設定した情報
各台帳参照の表示順 台帳リストの表示順	台帳参照ダイアログでの表示順の設定情報、 台帳リストでの表示順の設定情報
画面のサイズ、位置	弥生販売のウィンドウのサイズや表示位置



弥生販売を複数のユーザーで使用している場合

環境設定の設定内容は、Windows のログオンユーザーと弥生販売のユーザー名に依存します。

お使いのコンピューターや弥生販売を複数のユーザーで使用している場合は、「複数ユーザーでの使用」(P66)を参照してください。

弥生販売を複数のコンピューターで使用している場合

弥生販売を複数のコンピューターで使用している場合は、すべてのコンピューターで環境設定の移行作業が必要です。

3 データのコンバート

既に弥生販売をご使用の場合は、旧製品のデータを弥生販売 19 にコンバート(変換)することで引き続き使用することができます。

コンバート後のデータは新しいデータとして保存されます。コンバート前のデータが消去されたり内容が変更されたりすることはありません。



コンバートにかかる時間について

コンバートを行うデータの容量によって、コンバートにかかる時間が異なります。カウンターが動いている間はコンバート中ですが、データの容量によっては、コンバートの完了画面がすぐに表示されない場合があります。完了画面が表示されるまでお待ちください。

3-1 コンバータの起動

弥生販売のコンバータは、Windows のスタート画面や[スタート]メニュー、インストール時に作成されるショートカットアイコンから起動します。

- **[スタート]メニュー(またはスタート画面)から起動(Windows 10/8.1)**
[スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[弥生 19 シリーズ]－[弥生販売 19 サポートツール]－[弥生販売 19 コンバータ]をクリックします。
- **[スタート]メニューから起動(Windows 7)**
[スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]を選択し、[弥生 19 シリーズ]－[弥生販売 19]－[弥生販売 19 サポートツール]－[弥生販売 19 コンバータ]をクリックします。
- **ショートカットアイコンから起動**
デスクトップに作成されている[弥生販売 19 コンバータ]アイコンをダブルクリックします。



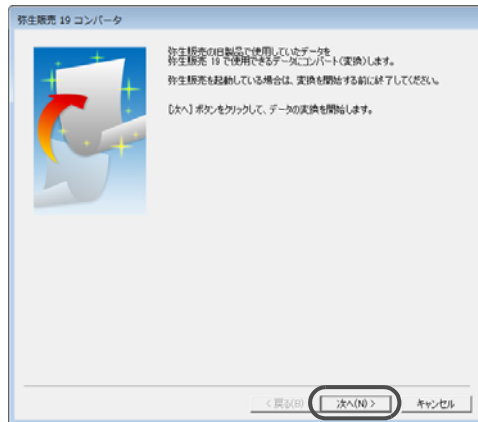
弥生販売 19 コン
バータ

3-2 データのコンバート

弥生販売 コンバータで、旧製品の事業所データ、帳票レイアウトデータ、環境設定をコンバートします。

データをコンバートする

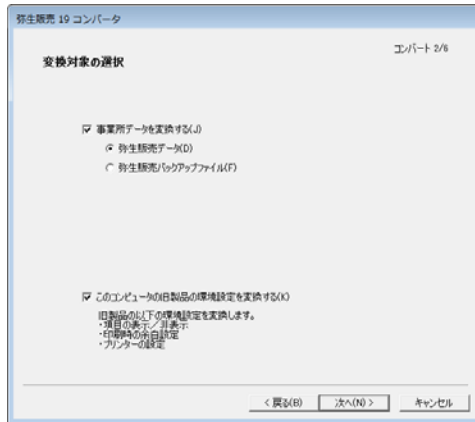
1. すべてのプログラムを終了します。
特に、常駐プログラムが動作している場合、正しくコンバートできないことがあります。
また、弥生販売が起動しているとコンバートを実行できません。
2. 弥生販売 19 コンバータを起動します(P57)。



3. コンバート対象となる弥生販売製品を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



4. コンバートする事業所データの種別を「弥生販売データ」または「弥生販売バックアップファイル」から選択します。



5. コンバートする事業所データを選択します。

< [弥生販売データ] を選択した場合 >

コンバートする事業所データを一覧から選択します。目的のデータが表示されない場合は、[参照] ボタンをクリックして、データが保存されているサーバーを選択します。



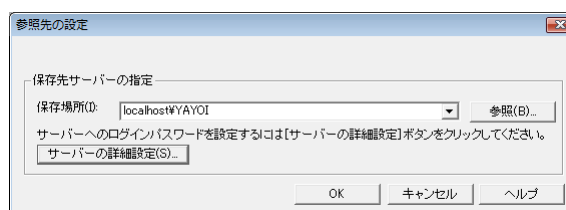
データベースに接続して事業所データを表示します。
→次のメモを参照



初めて事業所データをコンバートする場合

初めて事業所データをコンバートする場合には、事業所データとデータベースの接続設定を行う必要があります。[サーバーの詳細設定] ボタンをクリックして、[サーバーの詳細設定] ダイアログにて、データベースの sa パスワードを設定してください。

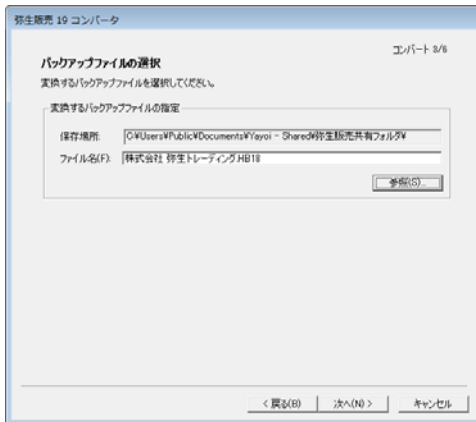
→ログインパスワード(sa パスワード)の設定(P46)



＜[弥生販売バックアップファイル]を選択した場合＞

[参照] ボタンをクリックして、コンバートするバックアップファイルを選択します。

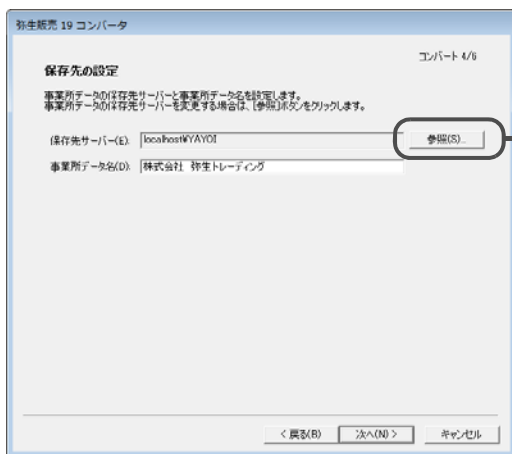
バックアップファイルの保存場所がわからない場合は、Windows の検索機能を使用して探してください。または、バックアップファイルを再度作成してください。



6. コンバート後のデータの保存先サーバーと事業所データ名を設定します。

[参照] ボタンをクリックして、事業所データの保存先を選択します。

保存先の選択方法については、「ログインパスワード(sa パスワード)の設定」(P46)を参照してください。

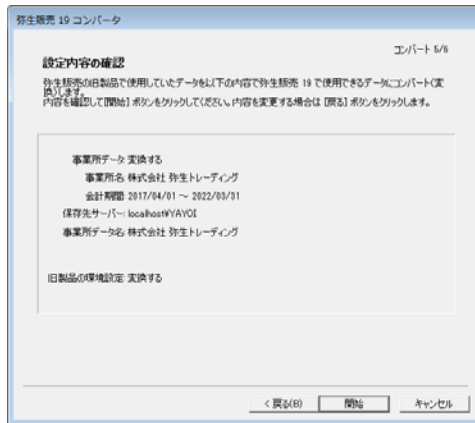


事業所データの保存先を選択してください。

→ログインパスワード(sa パスワード)の設定(P46)

7. 設定内容を確認し、問題がなければ[開始]ボタンをクリックします。

修正する場合は、[戻る]ボタンをクリックして修正する項目の画面まで戻ります。



8. コンバートの完了画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。



エラーメッセージが表示された場合

- 「サーバーにアクセスできませんでした。」
このメッセージが表示された場合は、保存先サーバー名が正しいかを確認してください。正しい保存先サーバー名を入力している場合はエラーメッセージの「サーバーにアクセスできませんでした。」と表示された場合(P109)を参照して確認を行ってください。
- 「既に同じ名前の事業所データが存在します。」
このメッセージが表示された場合はエラーメッセージの「既に同じ名前の事業所データが存在します。」と表示された場合(P109)を参照して確認を行ってください。

4 環境設定のコンバート

機能設定や印刷での設定などを弥生販売 19 にコンバート(変換)します。
旧製品での設定内容を弥生販売 19 に移行することができます。

4-1 環境設定のコンバート

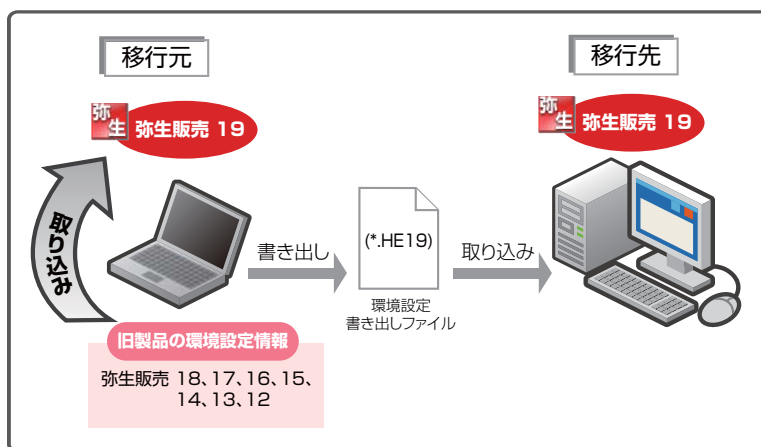
旧製品の環境設定を別のコンピューターへ移行する場合について説明します。

別のコンピューターへ移行

現在使用しているコンピューターから別のコンピューターへ環境設定を移行します。例えば、コンピューターの買い換えなどにより、弥生販売を他のコンピューターで使用する場合などにこのコンバート機能を使用します。

環境設定を移行するには、まず、今まで使用していたコンピューターで弥生販売 19 に環境設定をコンバートします。次に、コンバートした環境設定をファイルへ書き出して、書き出した環境設定のファイルを新しいコンピューターに取り込みます。

1. 移行元/移行先のコンピューターに弥生販売 19 をインストールします(P22)。
2. 移行元のコンピューターで旧製品の環境設定を弥生販売 19 に取り込みます(P64)。
3. 移動元のコンピューターで環境設定をファイルに書き出します(P63)。
4. 移動先のコンピューターで環境設定を取り込みます(P64)。



環境設定をファイルへ書き出す

1. 旧製品の弥生販売を終了します。
旧製品の弥生販売が起動しているとコンバートを実行できません。
2. [環境設定の書き出し]を起動します。
 1. 弥生販売を起動します(P30)。
 2. [ツール]メニューから[環境設定コンバート]－[環境設定書き出し]をクリックします。
[環境設定の書き出し]が起動します。
書き出し対象を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

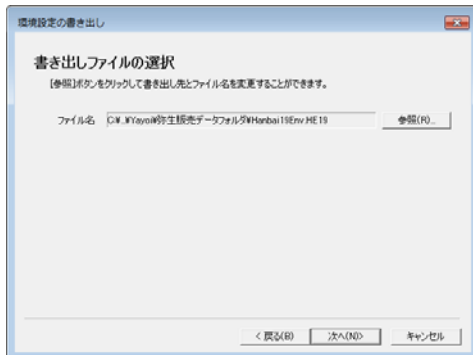


3. 環境設定を書き出す製品の種類を選択します。
 - <手順 2 で[弥生販売 19 の設定を書き出す]を選択した場合>
手順 4 へ進んでください。
 - <[このコンピュータの旧製品の設定を書き出す]を選択した場合>
書き出し元の製品を選択し、[次へ]をクリックします。



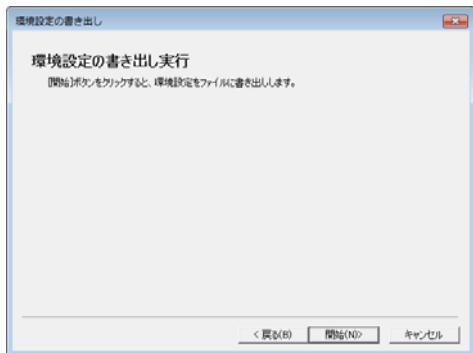
4. [参照] ボタンをクリックして、設定ファイルの保存先を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

別のコンピュータに設定ファイルを移行する場合は、保存先に USB メモリなどを選択してください。



5. [開始] ボタンをクリックして、環境設定の書き出しを実行します。

修正する場合は、[戻る] ボタンをクリックして修正する項目の画面まで戻ります。



6. 環境設定の書き出し完了の画面が表示されたら、[完了] ボタンをクリックします。



環境設定を取り込む

1. 旧製品の弥生販売を終了します。
旧製品の弥生販売が起動しているとコンバートを実行できません。
2. 弥生販売 19 を起動します(P30)。
3. [ツール] メニューから [環境設定コンバート] - [環境設定取り込み] をクリックします。
[環境設定の取り込み] が起動します。

4. 取り込み方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



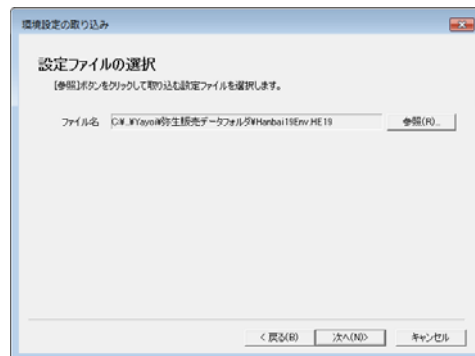
5. 取り込むデータを選択します。

<[書き出された設定ファイルを取り込む]を選択した場合>

取り込む設定ファイルを選択します。

[参照] ボタンをクリックして、設定ファイルが保存されているフォルダーを選択します。

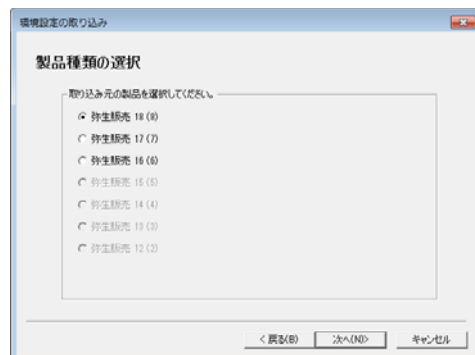
別のコンピューターで書き出した設定ファイルを取り込むには、P64 の手順 4 で保存した USB メモリなどを選択してください。



<[このコンピューター上の旧製品の設定を取り込む]を選択した場合>

取り込む製品を選択し、[次へ] をクリックします。

次の画面で取り込むデータの確認をします。



6. [開始] ボタンをクリックして、環境設定の取り込みを実行します。

修正する場合は、[戻る] ボタンをクリックして修正する項目の画面まで戻ります。

**7. 環境設定の取り込み完了の画面が表示されたら、[完了] ボタンをクリックします。**

4-2 複数ユーザーでの使用

環境設定の設定内容は、Windows のログオンユーザーと弥生販売のユーザー名ごとに異なります。そのため、弥生販売を複数のユーザーで使用している場合は、環境設定の移行の際に次のことを確認してください。

Windows のログオンユーザー

弥生販売の環境設定の内容は、Windows のログオンユーザーごとに異なります。1 台のコンピュータで、複数の Windows ログオンユーザーで使用している場合は、ログオンユーザーごとに環境設定の取り込みが必要です。

< 複数のログオンユーザーで使用しているかどうか分からない場合 >

コンピュータを起動する時に、ユーザーの選択やユーザー名の入力を行っていない場合は、複数のログオンユーザーで使用していません。

弥生販売のユーザー名

弥生販売の環境設定の内容は、弥生販売のユーザー名ごとに異なります。弥生販売のユーザー管理機能を使用して、複数のユーザー名を設定している場合は、ユーザー名ごとに環境設定の取り込みが必要です。

5

やよいの見積・納品・請求書からの移行

やよいの見積・納品・請求書データの一部を、弥生販売に移行することで引き続き使用することができます。

この章では、やよいの見積・納品・請求書データを移行する手順について説明します。

1 移行の対象	68
2 やよいの見積・納品・請求書データの移行	70
3 対応付け一覧	80

1 移行の対象

1-1 移行対象製品

やよいの見積・納品・請求書データの一部を、弥生販売 19 に移行できます。
弥生販売 19 に移行できるファイルの種類と拡張子は次のとおりです。

ファイルの種類		拡張子
事業所データ	やよいの見積・納品・請求書 13 事業所データ	.SD13
	やよいの見積・納品・請求書 14 事業所データ	.SD14
	やよいの見積・納品・請求書 15 事業所データ	.SD15
	やよいの見積・納品・請求書 16 事業所データ	.SD16
	やよいの見積・納品・請求書 17 事業所データ	.SD17
	やよいの見積・納品・請求書 18 事業所データ	.SD18
	やよいの見積・納品・請求書 19 事業所データ	.SD19
バックアップデータ	やよいの見積・納品・請求書 13 バックアップデータ	.SB13
	やよいの見積・納品・請求書 14 バックアップデータ	.SB14
	やよいの見積・納品・請求書 15 バックアップデータ	.SB15
	やよいの見積・納品・請求書 16 バックアップデータ	.SB16
	やよいの見積・納品・請求書 17 バックアップデータ	.SB17
	やよいの見積・納品・請求書 18 バックアップデータ	.SB18
	やよいの見積・納品・請求書 19 バックアップデータ	.SB19

1-2 対象となるデータ

移行の対象となるデータは以下のとおりです。

- 自社情報
- 得意先台帳
- 商品台帳



自社情報の内容について

やよいの見積・納品・請求書データから弥生販売に移行される自社情報には、以下の内容が含まれます。

- 自社名
- 自社郵便番号
- 自社住所 1
- 自社住所 2
- 自社 TEL
- 自社 FAX
- 帳票作成オプション - 年表示
- 帳票作成オプション - 基本端数処理
- 帳票作成オプション - 消費税計算端数処理



バックアップファイルから移行する場合

バックアップファイルから移行する場合は、次のことに注意してください。

- やよいの見積・納品・請求書で最新の事業所データのバックアップファイルを作成します。
- 移行を行う最新のバックアップファイルの保存場所を確認しておきます。
- バックアップファイルを USB メモリなどの外部メディアに保存している場合は、対象となるメディアをあらかじめコンピューターにセットしてください。

データの変更について

やよいの見積・納品・請求書データを弥生販売に移行する際、データ形式の違いにより一部のデータが自動で変更される場合があります。

変更される項目があるかどうかについては、移行時にあらかじめ確認することができます。

移行時の確認の詳細については「やよいの見積・納品・請求書データの移行手順」(P70)を参照してください。

自動で変更される項目についての詳細は「対応付け一覧」(P80)を参照してください。

2 やよいの見積・納品・請求書データの移行

やよいの見積・納品・請求書データの一部を、弥生販売に移行することで引き続き使用することができます。

移行したデータは弥生販売の新規事業所データとして保存されます。

2-1 やよいの見積・納品・請求書データの移行手順

やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行手順は以下のとおりです。

やよいの見積・納品・請求書データを移行する

1. すべてのプログラムを終了します。

特に、常駐プログラムが動作している場合、正しく移行できないことがあります。

また、以下の製品が起動していると[やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]ウィザードを起動できません。

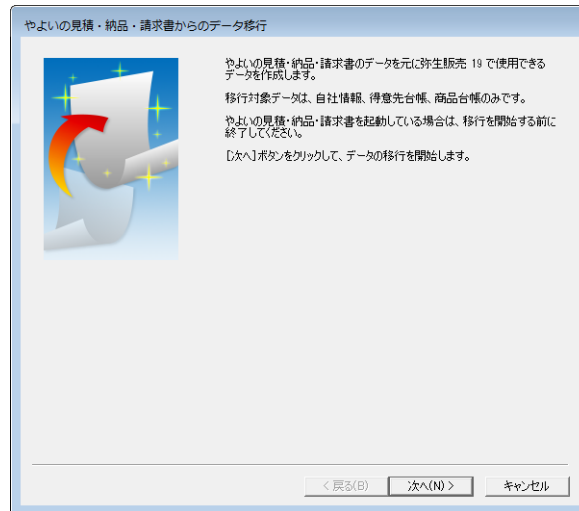
- 弥生販売 19
- 弥生販売 19 コンバータ
- やよいの見積・納品・請求書 13
- やよいの見積・納品・請求書 14
- やよいの見積・納品・請求書 15
- やよいの見積・納品・請求書 16
- やよいの見積・納品・請求書 17
- やよいの見積・納品・請求書 18
- やよいの見積・納品・請求書 19

2. [やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]ウィザードを起動します。

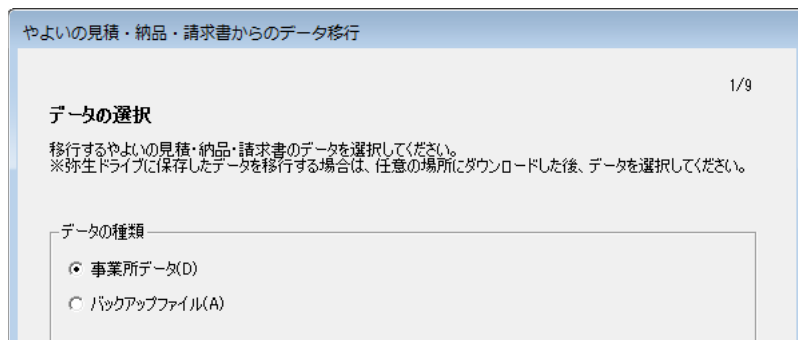
[やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]ウィザードは、「サポートツール」フォルダーから起動します。「サポートツール」フォルダーは、次の手順で表示します。

デスクトップの弥生 マイポータルのアイコンをダブルクリックして[弥生 マイポータル]を起動します。[弥生販売]メニューの[サポートツール]－[その他のサポートツール]をクリックします。

3. [やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]ウィザードが表示されるので、[次へ]ボタンをクリックします。



4. 移行するやよいの見積・納品・請求書データの種別を「事業所データ」または「バックアップファイル」から選択します。

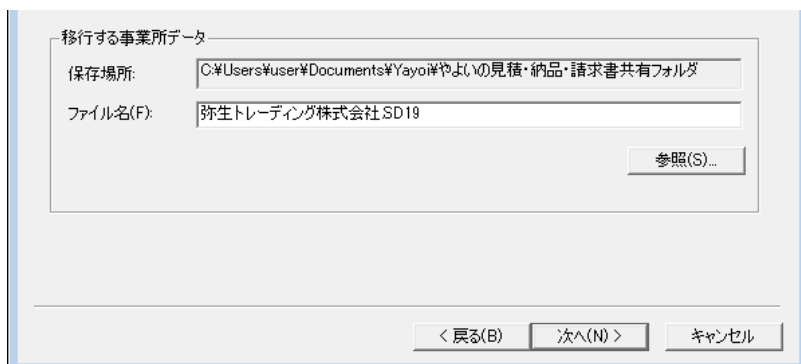


5. 移行するやよいの見積・納品・請求書データを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

< [事業所データ]の場合 >

同じコンピュータでやよいの見積・納品・請求書を使用していた場合、最後に使用した事業所データがあらかじめ表示されます。

移行対象の事業所データが表示されていない場合は、[参照]ボタンをクリックして移行対象の事業所データを選択します。



<[バックアップファイル]の場合>

[参照]ボタンをクリックして、移行対象のバックアップファイルを選択します。

バックアップファイルの保存場所がわからない場合は、Windows の検索機能を使用して探すか、バックアップファイルを再度作成してください。

6. 移行するデータのチェックを行います。

やよいの見積・納品・請求書データを弥生販売に移行する際、データ形式の違いにより一部のデータが自動で変更される場合があります。

データの変更が発生するかどうかは、[次へ]ボタンをクリックして確認することができます。

クリックすると、データの変更についての説明がヘルプで表示されます。



データのチェックにかかる時間について

移行を行うデータの容量によっては、チェック処理に時間がかかる場合があります。

チェック結果画面が表示されるまでお待ちください。

7. 移行するデータのチェック結果が表示されます。

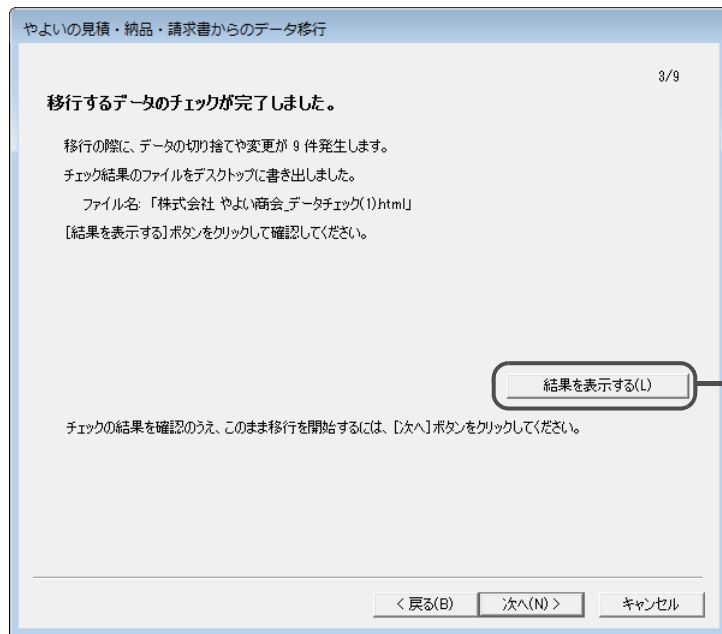
<データの変更が発生する場合>

移行時に発生する変更件数が表示され、同時にデスクトップにチェック結果のファイルが書き出されます。

[結果を表示する]ボタンをクリックすると、デスクトップに書き出されたチェック結果が表示されます。

チェック結果を確認し、やよいの見積・納品・請求書でデータを修正してから再度移行を行う場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてウィザードを終了してください。

弥生販売へ移行後データを修正する場合は、[次へ]ボタンをクリックします。



クリックすると、チェック結果のファイル[データチェック - やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]が表示されます。データの変更内容を確認することができます。

<データの変更が発生しない場合>

[次へ]ボタンをクリックします。

やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行

3/9

移行するデータのチェックが完了しました。

チェックの結果、自動で変更されるデータはありませんでした。

このまま移行を開始するには、[次へ]ボタンをクリックしてください。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. やよいの見積・納品・請求書データを移行するための、弥生販売のデータを作成します。

表示される画面の説明を確認後、[次へ]ボタンをクリックします。

やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行

4/9

弥生販売のデータを作成します。

弥生販売のデータを作成し、やよいの見積・納品・請求書のデータを移行します。

移行するデータは、以下の3種類です。

- ・会社情報
- ・得意先台帳
- ・商品台帳

データの移行により、元のやよいの見積・納品・請求書のデータが、削除、変更されることはありません。

次のページより、弥生販売の事業所データを作成するための、以下の設定を行います。

- ・会計期間の設定
- ・データの保存先の設定
- ・ユーザー管理の設定

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

9. 会計期間を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

会計期間は 1 年間です。期首日を指定すると、期末日が自動表示されます。

クリックすると、カレンダーが表示されます。
期首日をカレンダーから入力することもできます。

クリックすると、会計期間についての説明がヘルプで表示されます。



会計期間について

会計期間には、弥生販売の運用期間ではなく、自社の会計期間を指定してください。
弥生販売の事業所データの作成後に会計期間を変更することはできません。[次へ]ボタンをクリックする前に表示される会計期間をご確認ください。

10.データの保存先を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

保存先サーバーを変更する場合や初めてデータベースにアクセスする場合は、[参照先] ボタンをクリックして、保存先サーバーを設定します。

クリックすると[参照先の設定]ダイアログが表示されます。
保存先サーバーを設定します。



初めて事業所データを作成する場合

初めて事業所データを作成する場合は、データベースの接続設定を行う必要があります。

[サーバーの詳細設定] ボタンをクリックして、[サーバーの詳細設定] ダイアログにて、データベースの sa パスワードを設定してください。

→「ログインパスワード(sa パスワード)の設定」(P46)

エラーメッセージが表示された場合

「サーバーにアクセスできませんでした。」というメッセージが表示された場合は、「[サーバーにアクセスできませんでした。]と表示された場合」(P109)を参照してください。

11. ユーザー管理の設定を行い、[次へ] ボタンをクリックします。

必要に応じて[管理者パスワード]を入力します。

やよいの見積・納品・請求書の事業所データにパスワードを設定していた場合は、同じパスワードを管理者パスワードとして引き継ぐことができます。

やよいの見積・納品・請求書の事業所データのパスワードを引き継がない場合は、[やよいの見積・納品・請求書のパスワードを引き継ぐ]のチェックを外してパスワードを入力します。

やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行 7/9

ユーザー管理の設定

弥生販売でユーザー管理を行う場合は、「管理者」ユーザーのパスワードを設定します。
ユーザー管理を行わない場合は、入力する必要はありません。

ここで設定したパスワードは、弥生販売のデータを開く際に必要になります。

☒ やよいの見積・納品・請求書のパスワードを引き継ぐ(S)

管理者ユーザー名:

管理者パスワード(P): (半角英数10文字まで)

パスワードの確認(C):

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

12. 設定内容を確認して[開始] ボタンをクリックします。

[やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]ウィザードの各画面で設定した内容が表示されます。

設定を変更する場合は[戻る]ボタンをクリックして変更する画面まで戻ります。

やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行 8/9

設定内容の確認

やよいの見積・納品・請求書で使用していたデータを以下の内容で弥生販売 19 で使用できるデータに移行します。
内容を確認して[開始]ボタンをクリックしてください。内容を変更する場合は[戻る]ボタンをクリックします。

移行元事業所データ 弥生トレーディング株式会社 SD19

事業所名: 株式会社 やよい商会

会計期間: 2018年 1月 1日 ~ 2018年12月31日

保存先サーバー: TEST-PC¥YAYOI

事業所データ名: 弥生トレーディング株式会社

管理者パスワード: 設定あり

※データ移行後は会計期間の変更ができませんのでご注意ください。

< 戻る(B) 開始 キャンセル



移行にかかる時間について

移行を行うデータの容量によっては、移行処理に時間がかかる場合があります。
完了画面が表示されるまでお待ちください。

13.完了画面が表示されます。

データの変更の有無によって表示される画面が異なります。

<データの変更が発生した場合>

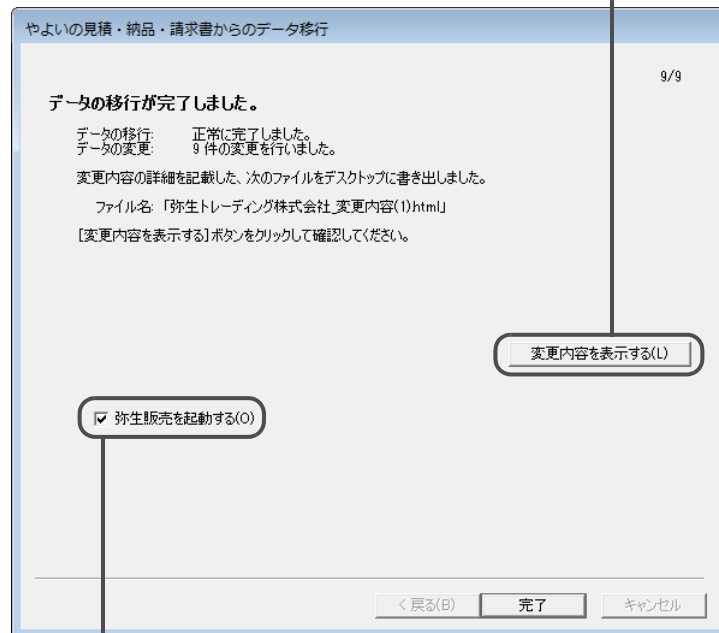
移行時に発生した変更件数が表示され、デスクトップに変更内容の詳細を記載したファイルが書き出されます。

[変更内容を表示する]ボタンをクリックすると、デスクトップに書き出された変更内容が表示されます。

変更内容を確認後、[完了]ボタンをクリックして、[やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]ウィザードを終了します。

ウィザード終了後に必要に応じて、やよいの見積・納品・請求書でデータを修正して再度移行を行うか、移行後の弥生販売のデータを修正してください。

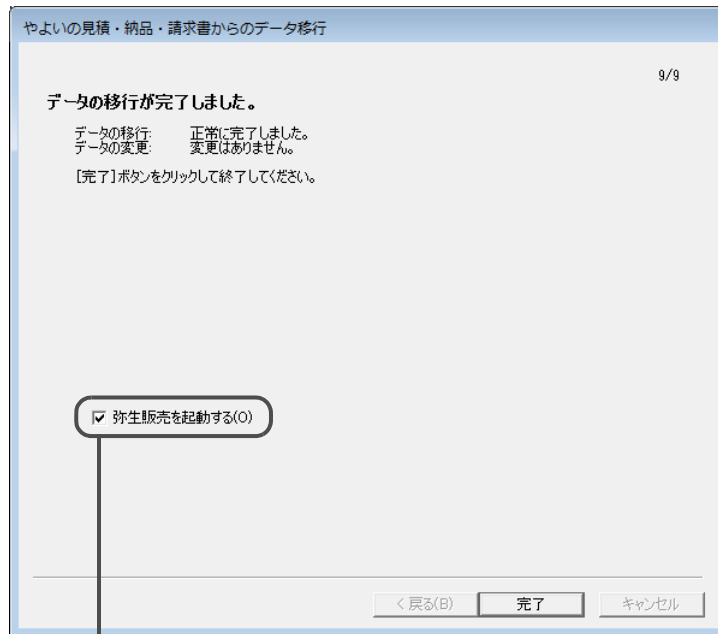
クリックすると、変更内容の詳細を記載したファイル[変更内容 - やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]が表示されます。



チェックしておくことで、ウィザード終了後に弥生販売を起動して移行後のデータを開くことができます。

<データの変更が発生しなかった場合>

[完了]ボタンをクリックして、[やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行]ウィザードを終了します。



チェックしておくことで、ウィザード終了後に弥生販売を起動して移行後のデータを開くことができます。

3 対応付け一覧

やよいの見積・納品・請求書 19 データと弥生販売 19 データの項目の対応付けは、次のとおりです。

それぞれの項目は、やよいの見積・納品・請求書と弥生販売のデータ形式の違いにより、データが自動で変更される場合があります。

変更の詳細については、[やよいの見積・納品・請求書からのデータ移行のヘルプ]を参照してください。

3-1 自社情報

No.	やよいの見積・納品・請求書	弥生販売
	〔設定〕項目名	〔基本情報〕項目名
1	自社情報 - 自社名	事業所名
2	自社情報 - 自社郵便番号	郵便番号
3	自社情報 - 自社住所 1	住所 1
4	自社情報 - 自社住所 2	住所 2
5	自社情報 - 自社 TEL	TEL
6	自社情報 - 自社 FAX	FAX
7	帳票作成オプション - 年表示	年表示
8	帳票作成オプション - 基本端数処理	基本端数処理
9	帳票作成オプション - 消費税計算端数処理	単価等の内外交換時端数処理

No.	やよいの見積・納品・請求書	弥生販売
	〔設定〕項目名	〔得意先規定値〕項目名
1	帳票作成オプション - 基本端数処理	税端数処理
2	帳票作成オプション - 消費税計算端数処理	金額端数処理

3-2 得意先台帳

No.	やよいの見積・納品・請求書	弥生販売
	〔得意先台帳〕 項目名	〔得意先台帳〕 項目名
1	得意先コード	コード
2	得意先名	名称
3	得意先名カナ	フリガナ
4	郵便番号	郵便番号
5	住所 1	住所 1
6	住所 2	住所 2
7	部署	部署名
8	役職	役職名
9	担当者	ご担当者
10	敬称	敬称
11	TEL	TEL
12	FAX	FAX
13	メモ	メモ欄

3-3 商品台帳

No.	やよいの見積・納品・請求書	弥生販売
	〔商品台帳〕 項目名	〔商品台帳〕 項目名
1	商品コード	コード
2	商品名	名称
3	商品名カナ	フリガナ
4	単位	単位
5	課税区分	課税区分
6	メモ	メモ欄
7	税抜単価	税抜上代
8	税込単価	税込上代

6

プログラムの修復と削除

弥生販売のプログラムの修復と削除について説明します。
また、データベース(YAYOIインスタンス)の削除について説明します。

1 弥生販売の修復と削除	84
2 データベースの削除	88

1 弥生販売の修復と削除

1-1 弥生販売の修復

弥生販売の動作が不安定になった場合などは、次の手順で弥生販売を再インストールして修復することができます。一括バックアップツールや弥生 ライセンス 認証管理も同様の手順で修復できます。

修復を行うことで事業所データが削除されることはありません。プログラムの修復後、そのままご利用いただけます。



弥生販売の事業所データは修復されません

弥生販売のプログラムの修復では、作成した事業所データを修復することはできません。



弥生販売を修復する

1. 起動しているすべてのプログラムを終了します。
特に、常駐プログラムが動作していると、正しく修復できないことがあります。
2. DVD-ROM ドライブに弥生販売 19 の DVD-ROM をセットします。
[弥生 19 シリーズ インストールランチャー]が表示されます。
3. [このメディアを開く]ボタンをクリックします。



4. 「YHanbai」－「Hanbai」をダブルクリックします。

「Hanbai」フォルダーが表示されます。

次のツールを修復する場合は、「YHanbai」－「Hanbai」ではなく、各ツールのフォルダーをダブルクリックしてください。

- 一括バックアップツールを修復する場合
「BackupTool」をダブルクリックしてください。
- 弥生 ライセンス認証管理を修復する場合
「YNinsyo」をダブルクリックしてください。

5. 「Setup」をダブルクリックします。

6. 「ようこそ」画面が表示されるので、[次へ] ボタンをクリックします。

7. [修復] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

削除を選択すると弥生販売の削除を行うことができます。



8. 修復の確認画面で、[インストール] ボタンをクリックします。

9. 弥生販売の修復が完了したらウィザードの完了画面が表示されるので、[完了] ボタンをクリックします。

10. DVD-ROM ドライブから DVD-ROM を取り出します。

1-2 弥生販売の削除

弥生販売や一括バックアップツール、弥生 ライセンス認証管理をハードディスクから削除する場合は、次の手順で行います。

なお、弥生 ライセンス認証管理は、他の弥生製品がインストールされていると削除できません。削除する場合は、他にインストールされている弥生製品が無いことを確認した上で行ってください。また、弥生 ライセンス認証管理を削除すると弥生 ネットワーク設定、弥生ドライブ、デスクトップの弥生 マイポータルも併せて削除されます。



弥生販売を削除する前の注意

弥生販売を削除する前に、必ずライセンス認証の解除を行ってください。ライセンス認証の解除を行う前に弥生販売を削除すると、別のコンピューターで弥生販売を使用できなくなります。弥生販売を別のコンピューターにインストールする場合や、お使いのコンピューターを廃棄する場合、コンピューターをフォーマットする場合は、必ずライセンス認証の解除を行った後、弥生販売を削除してください。

→ライセンス認証の解除(P35)



弥生販売の事業所データは削除されません

事業所データの削除については、弥生販売のプログラムを削除する前にヘルプを参照してください。



弥生販売を削除する

1. 弥生販売を削除する場合は、ライセンス認証を解除します(P35)。
一括バックアップツールのみを削除する場合、ライセンス認証の解除は必要ありません。
2. 起動しているすべてのプログラムを終了します。
3. コントロールパネルを表示します。
Windows 10/8.1 の場合：[スタート]ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[コントロール パネル]をクリックします。
Windows 7 の場合：[スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。
4. [プログラムのアンインストール]をクリックします。

5. 表示されるプログラムの一覧から[弥生販売 19]を選択します。

次のツールを削除する場合は、[弥生販売 19]ではなく、各ツールを選択してください。

- 一括バックアップツールを削除する場合
[弥生一括バックアップツール]を選択します。
- 弥生 ライセンス認証管理を削除する場合
[弥生 ライセンス認証管理]を選択します。

6. [変更]ボタンをクリックします。

7. 「ようこそ」画面が表示されるので、[次へ]ボタンをクリックします。

8. [削除]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。



9. 削除の確認画面で、[削除]ボタンをクリックします。

10.完了画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。



弥生販売を DVD-ROM を使用して削除する

弥生販売の削除をコントロールパネルから行えない場合は、弥生販売 19 の DVD-ROM を使用して行うことができます。
DVD-ROM を使用して削除する場合は、ライセンス認証を解除してから (P35)、「弥生販売を修復する」(P84)の手順に従って弥生販売のインストーラーを実行し、手順 7 で[修復]ではなく[削除]を選択して処理を続行します。

2 データベースの削除

データベース(YAYOI インスタンス)の削除について説明します。

2-1 データベース(YAYOI インスタンス)の削除の流れ

YAYOI インスタンスを削除すると、YAYOI インスタンスに保存されているすべてのデータが削除され、元に戻すことはできません。

YAYOI インスタンスを削除する前に、一括バックアップツールまたは弥生製品のバックアップを使用し、YAYOI インスタンスのすべての事業所データをバックアップしてください。バックアップ後、バックアップファイルが正常に復元できるかを確認してから YAYOI インスタンスを削除してください。



他の弥生製品を使用している場合

YAYOI インスタンスは、弥生会計ネットワーク、AE でも使用します。弥生販売の環境を他のコンピューターに移動するなど削除する場合は、削除前に各弥生製品ですべての事業所データのバックアップを行ってください。

YAYOI インスタンスの削除は次の流れにそって行います。

1. YAYOI インスタンスを使用しているすべての弥生製品が終了していることを確認する
2. YAYOI インスタンスを停止する
3. データベース(YAYOI インスタンス)を削除する

2-2 データベース(YAYOI インスタンス)の削除

データベース(YAYOI インスタンス)を削除する

YAYOI インスタンスを使用しているすべての弥生製品が終了していることを確認してください。

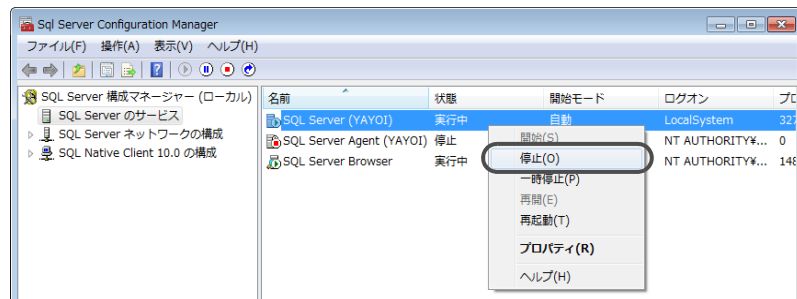
< YAYOI インスタンスを停止する >

1. [SQL Server Configuration Manager]を表示します。

Windows 10/8.1 の場合: [スタート]ボタンからすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server 2014(または 2012/2008 R2/2008)] – [SQL Server 構成マネージャー] (または [SQL Server Configuration Manager]) をクリックします。

Windows 7 の場合: [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] – [Microsoft SQL Server 2014(または 2012/2008 R2/2008)] – [構成ツール] – [SQL Server 構成マネージャー] (または [SQL Server Configuration Manager]) をクリックします。

2. [SQL Server のサービス]を選択し、右側で「SQL Server(YAYOI)」を右クリックし、表示されたメニューから[停止]をクリックします。



< YAYOI インスタンスを削除する >

1. コントロールパネルを表示します。

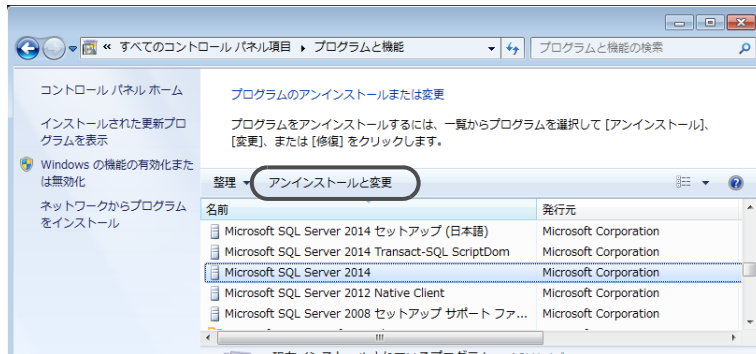
Windows 10/8.1 の場合: [スタート]ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール] – [コントロール パネル] をクリックします。

Windows 7 の場合: [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル] をクリックします。

2. [プログラムのアンインストール]をクリックします。

3. 表示されるプログラムの一覧から [Microsoft SQL Server 2014 (または 2012/2008 R2/2008)]を選択します。

4. [アンインストールと変更] ボタンをクリックします。

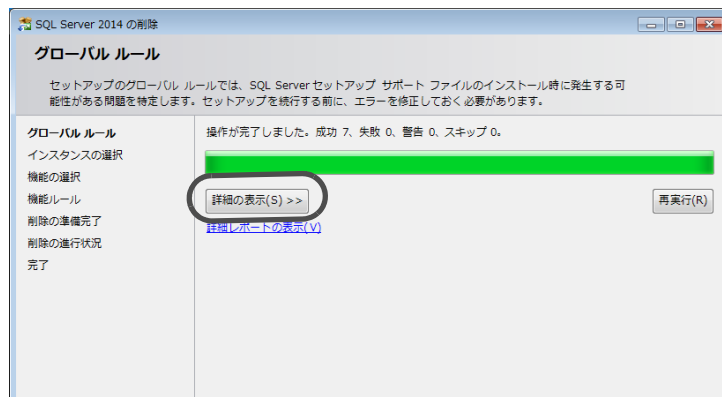


選択画面が表示されます。

5. [削除] をクリックします。



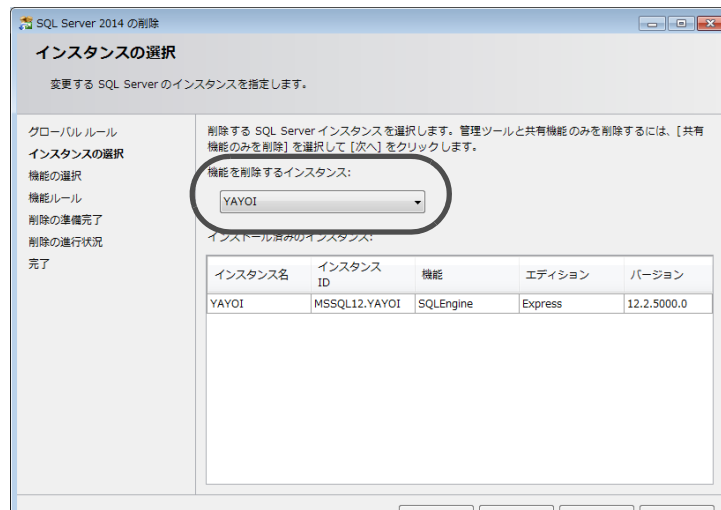
[グローバル ルール] (または[セットアップ サポート ルール]) が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示] ボタンをクリックして原因を確認してください。



6. [OK] ボタンをクリックします。

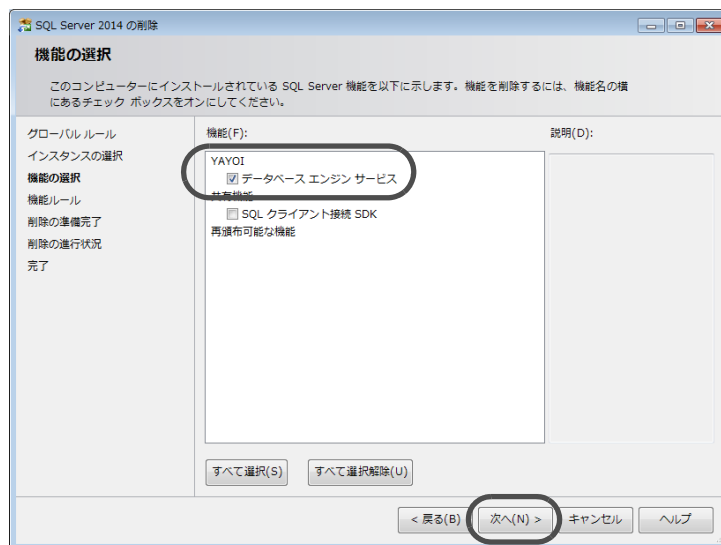
[インスタンスの選択] 画面が表示されます。

7. [機能を削除するインスタンス]の▼をクリックして[YAYOI]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



[機能の選択]画面が表示されます。

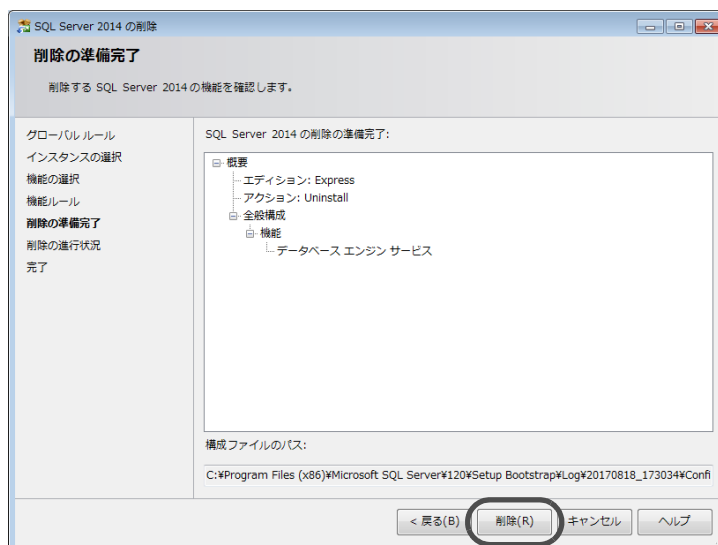
8. 機能の一覧から[YAYOI:データベースエンジンサービス]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。



[機能ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

9. [次へ]ボタンをクリックします。
[削除の準備完了]画面が表示されます。

10. [削除] ボタンをクリックします。



削除が開始され、完了すると「完了しました」と表示されます。

11. [閉じる] ボタンをクリックします。

SQL Server 2008 の場合は、[次へ] ボタンをクリックして完了画面が表示されたら、[閉じる] ボタンをクリックします。



SQL Server 2005 のデータベースの削除

SQL Server 2005 のデータベースを削除する手順は、次のとおりです。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] – [Microsoft SQL Server 2005] – [構成ツール] – [SQL Server 構成マネージャ] (または [SQL Configuration Manager]) をクリックします。
2. [SQL Server Configuration Manager] で「SQL Server 2005 のサービス」を選択し、右側で「SQL Server(YAYOI)」を右クリックして「停止」を選択します。
3. [コントロール パネル] の「プログラムのアンインストール(プログラムの追加と削除)」をクリックし、[Microsoft SQL Server 2005] を選択して「アンインストール(変更と削除)」ボタンをクリックします。
4. [インスタンスの選択] で「YAYOI データベースエンジン」を選択して「次へ」ボタンをクリックし、削除内容に「データベースエンジン: YAYOI」が表示されていることを確認して「完了」ボタンをクリックします。

7

追加購入時の導入フロー

この章では、弥生販売プロフェッショナルをご利用の場合に、弥生販売プロフェッショナルを追加購入し、複数のコンピューターで使用するための導入の流れを説明します。

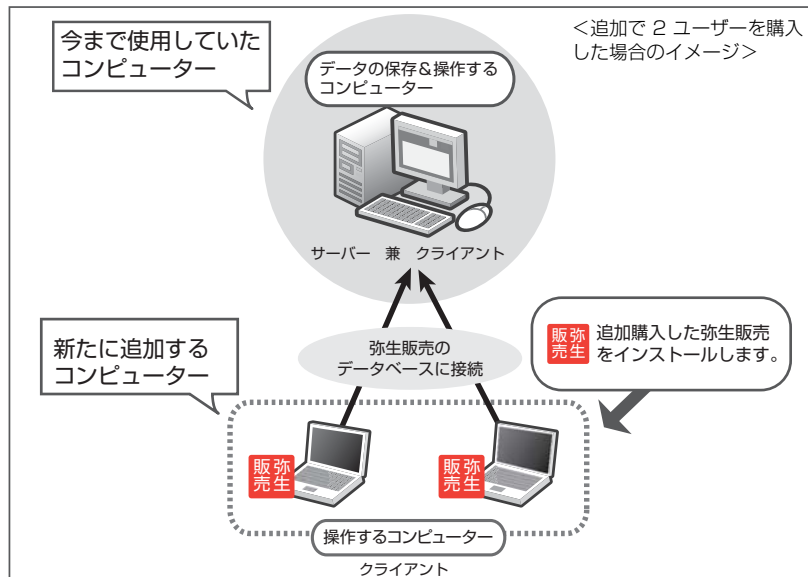
- 1 追加購入時のシステム構成 94
- 2 追加購入時のセットアップの流れ 95

1 追加購入時のシステム構成

弥生販売プロフェッショナルをご使用の場合には、弥生販売プロフェッショナルを追加購入することにより、複数台のコンピューターから同じデータにアクセスして、伝票入力や帳票出力などの作業を同時に行うことができます。

システム構成

今まで使用していたコンピューターを「データの保存＆操作するコンピューター（サーバー兼クライアント）」、新たに追加するコンピューターを「操作するコンピューター（クライアント）」として使用します。



● データの保存＆操作するコンピューター（サーバー兼クライアント）

今まで使用していたコンピューターを「データの保存＆操作するコンピューター（サーバー兼クライアント）」とします。

弥生販売の「データを保存するコンピューター（サーバー）」と「弥生販売を操作するコンピューター（クライアント）」の 2 つの役割を担います。

● 操作するコンピューター（クライアント）

弥生販売を操作するコンピューターとして使用します。

このコンピューターに追加購入した弥生販売をインストールします。



サーバーとクライアント

- ・サーバー
弥生販売のデータを保存するためのデータベースがインストールされているコンピューターをサーバーといいます。弥生販売のデータを保存する役割をします。
- ・クライアント
サーバーのデータベースにアクセスして、弥生販売を操作するコンピューターをクライアントといいます。弥生販売を操作する役割をします。

2 追加購入時のセットアップの流れ

2-1 セットアップ前の準備

セットアップ前に次の内容を確認しておきましょう。

- 追加購入時のシステム構成の確認

弥生販売を複数台のコンピュータで使用するためのシステム構成を確認しておきましょう。

→「追加購入時のシステム構成」(P94)

- ネットワーク環境に関する注意事項の確認

弥生販売を複数台のコンピュータで使用するためにはネットワーク環境が必要です。ネットワーク環境の注意事項を確認しておきましょう。

→「ネットワーク環境に関する注意」(P112)

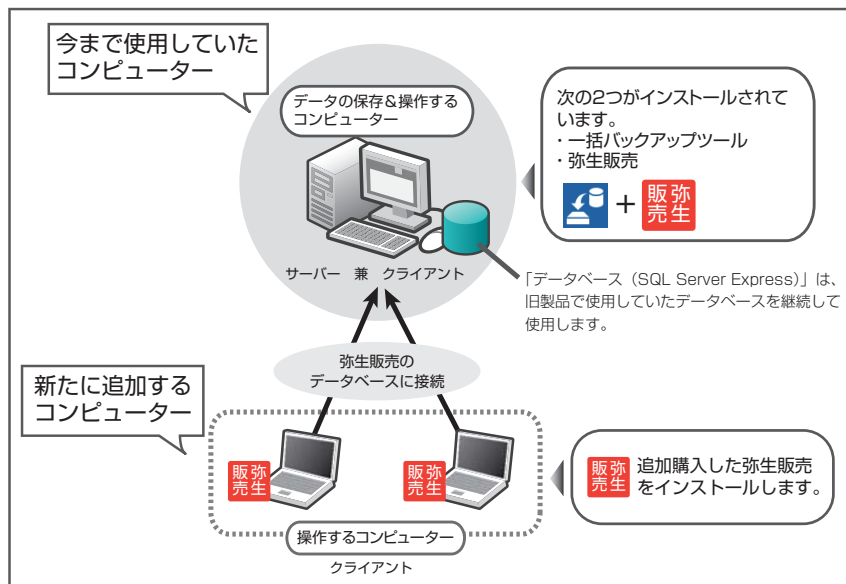
- サーバーのコンピュータ名の確認

今まで使用してきたコンピュータのコンピュータ名を確認しておきましょう。事業所データとデータベースの接続設定やクライアントのセットアップ時に必要です。

→「コンピュータ名の確認」(P19)

2-2 セットアップの流れ

今まで使用していたコンピュータを弥生販売のデータを保存するコンピュータ(サーバー)とします。また、新たに追加するコンピュータに追加購入した弥生販売プロフェッショナルをインストールします。



<追加で 2 ユーザーを購入した場合のイメージ>

☞ セットアップ手順

データの保存&操作するコンピューター（サーバー 兼 クライアント）

弥生販売をバージョンアップします。

今まで使用していたコンピューターの弥生製品をバージョンアップします。バージョンアップ方法は、「旧製品からバージョンアップする場合」(P7)を参照してください。



既に弥生販売 19 を使用している場合は、バージョンアップする必要はありません。次の手順へ進んでください。

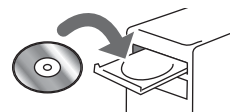
事業所データを使用するユーザーを登録→ヘルプ「ユーザーの登録」

事業所データには、同時に同じユーザー名でログインすることはできません。あらかじめ事業所データを使用するユーザーを登録しておきましょう。ユーザーの登録については、ヘルプ「ユーザーの登録」を参照してください。ヘルプは、弥生販売を起動して(P30)、[ヘルプ]メニューの[目次とキーワード]をクリックすると表示できます

操作するコンピューター（クライアント）

追加購入した弥生販売の DVD-ROM をセット

追加購入した弥生販売の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブにセットします。画面の指示に従ってインストールします。



弥生販売のインストール → P22

弥生販売をインストールします。インストール後には、弥生販売 19 を起動して、ライセンス認証(P31)を行います。ライセンス認証は、初回の起動から 30 日以内に行ってください。

データベースへの接続（クライアントとサーバーのデータベース）→ P49

クライアントからサーバーのデータベースに接続して、データベースに保存されている事業所データを開きます。サーバーに保存されている事業所データに伝票入力や帳票出力などの作業が行えます。

帳票レイアウトデータのバックアップの復元→帳票レイアウト(弥生販売11形式)のヘルプ

弥生販売 11 以前の帳票レイアウトを使用している場合は、「データの保存&操作するコンピューター(サーバー兼クライアント)」で編集したすべての帳票データをバックアップし、新たに追加した「操作するコンピューター(クライアント)」にバックアップを復元してください。

8

困ったときは

設定などの詳細な内容やエラーメッセージなどについて説明します。

- 1 設定の詳細 98
- 2 エラーが表示された場合の対処方法 108

1 設定の詳細

設定などの詳細な内容について説明します。

1-1 環境の設定の詳細

インストールされているデータベースのバージョンの確認方法

下記のいずれかの方法で、インストールされているデータベースのバージョンを確認することができます。

※ 下記の方法で [Microsoft SQL Server] が表示されない場合は、データベースがインストールされていません。

- スタートメニューで確認する

Windows のスタート画面 ([スタート] メニュー) の [すべてのアプリ (すべてのプログラム)] にある [Microsoft SQL Server] の表示名を確認してください。

- コントロールパネルで確認する

1. コントロールパネルを表示します。

Windows 10/8.1 の場合: [スタート] ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール] - [コントロール パネル] をクリックします。

Windows 7 の場合: [スタート] ボタンをクリックし、[コントロール パネル] をクリックします。

2. [プログラム] をクリックし、表示された画面で [プログラムと機能] をクリックします。

3. プログラムの一覧に表示される [Microsoft SQL Server] の表示名を確認してください。

ファイアウォールの設定

「SQL Server」の通信を許可するためには、「SQL Server」のプログラム「sqlservr.exe」と「sqlbrowser.exe」に、ファイアウォールのブロックで例外許可を与える必要があります。

ここでは、Windows ファイアウォールの設定方法について説明します。

→別途ファイアウォールソフトをインストールしている場合(P105)

最初に、この設定が必要かどうかを確認します。必要な場合は、これらのプログラムの場所を確認します。その後、ファイアウォールで通信許可の設定を行います。

<設定が必要かどうかを確認する>

1. コントロールパネルを表示します。

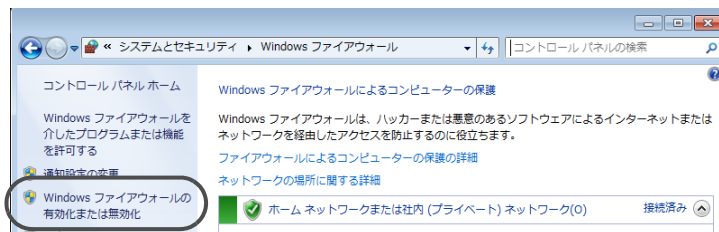
Windows 10/8.1 の場合: [スタート]ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール] - [コントロール パネル]をクリックします。

Windows 7 の場合: [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。

2. [システムとセキュリティ]をクリックします。

3. [Windows ファイアウォール]をクリックします。

4. [Windows ファイアウォールの有効化または無効化]をクリックします。



[設定のカスタマイズ]が表示されます。

5. [ホームまたは社内 (プライベート) ネットワークの場所の設定]グループの設定を確認し、必要な操作を行います。

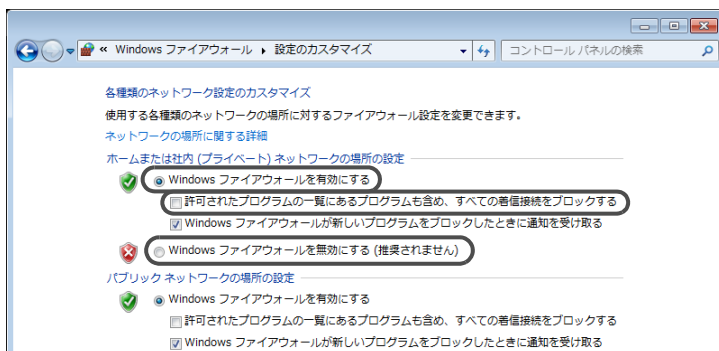
設定を変更する前に、ネットワーク管理者に設定の変更について確認するようにしてください。

<「無効」に設定してある場合>

「<プログラムの場所を確認する>」(P100)以降のファイアウォールに関する設定は必要ありません。

＜「有効」に設定してある場合＞

- [許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする]にチェックがある場合
チェックを外し、「＜プログラムの場所を確認する＞」(P100)以降のファイアウォールに関する設定を行います。
- [許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする]にチェックがない場合
「＜プログラムの場所を確認する＞」(P100)以降のファイアウォールに関する設定を行います。



[パブリックネットワークの場所の設定]グループにある、[許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする]にチェックがある場合、ネットワーク環境によっては設定を変更する必要があります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

＜プログラムの場所を確認する＞

ここで確認したプログラムの場所は、「＜ファイアウォールで通信許可の設定をする＞」(P102)で使用します。

1. [SQL Server Configuration Manager]を表示します。

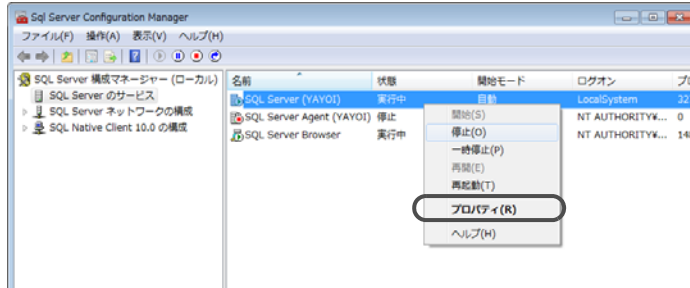
Windows 10/8.1 の場合：[スタート]ボタンからすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server 2014(または 2012、2008 R2、2008)] – [SQL Server 構成マネージャー] (または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。

Windows 7 の場合：[スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] – [Microsoft SQL Server 2014(または 2012、2008 R2、2008)] – [構成ツール] – [SQL Server 構成マネージャー] (または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。

2. [SQL Server のサービス]をクリックします。

画面右側の表示が変わるので、「SQL Server(YAYOI)」、「SQL Server Browser」があることを確認してください。

3. 初めに、「sqlservr.exe」の場所を確認します。「SQL Server(YAYOI)」を右クリックし、表示されたメニューから[プロパティ]をクリックします。
[SQL Server(YAYOI)のプロパティ]が表示されます。



4. [サービス]タブをクリックし、[バイナリパス]を確認して、この場所をメモしておきます。

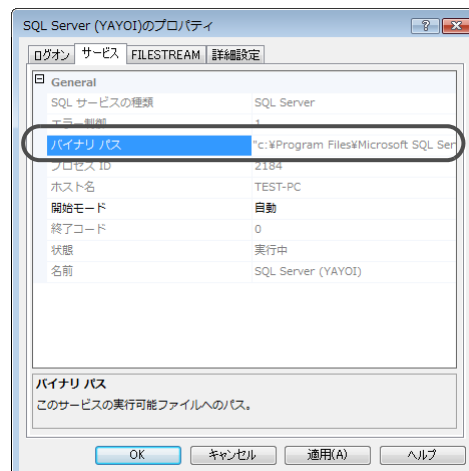
この表示内容の「」で囲まれた部分が「sqlservr.exe」の場所です。パスが長い場合は、クリックしてキーボードの「→」キーを押すと右端まで見ることができます。C ドライブにデータベースをインストールした場合、パスの表示例は次のとおりです。

(SQL Server 2014)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL12.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe

(SQL Server 2012)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe

(SQL Server 2008 R2)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10_50.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe

(SQL Server 2008)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe



- 画面をキャンセルして、次に「sqlbrowser.exe」の場所を確認します。「SQL Server Browser」を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックします。

「SQL Server Browser のプロパティ」が表示されます。

- 「サービス」タブをクリックし、「バイナリパス」を確認して、この場所をメモしておきます。

この表示内容の「」で囲まれた部分が「sqlbrowser.exe」の場所です。パスが長い場合は、クリックしてキーボードの「→」キーを押すと右端まで見ることができます。

例えば、SQL Server 2014 を C ドライブにインストールした場合は、「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Shared\sqlbrowser.exe」(SQL Server 2012/2008 R2/2008 の場合も同じ場所)となります。

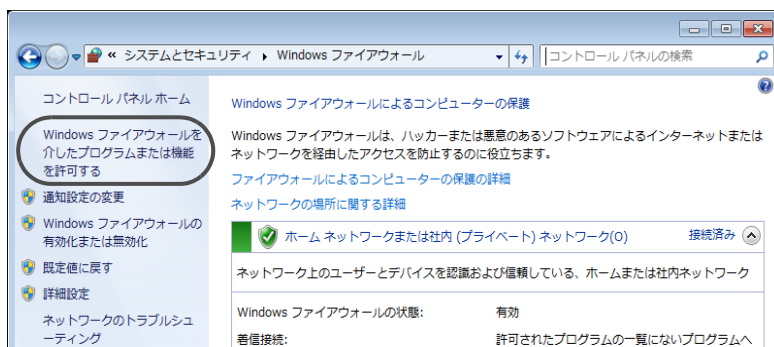
＜ファイアウォールで通信許可の設定をする＞

- コントロールパネルを表示します。

Windows 10/8.1 の場合：[スタート]ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[コントロール パネル]をクリックします。

Windows 7 の場合：[スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。

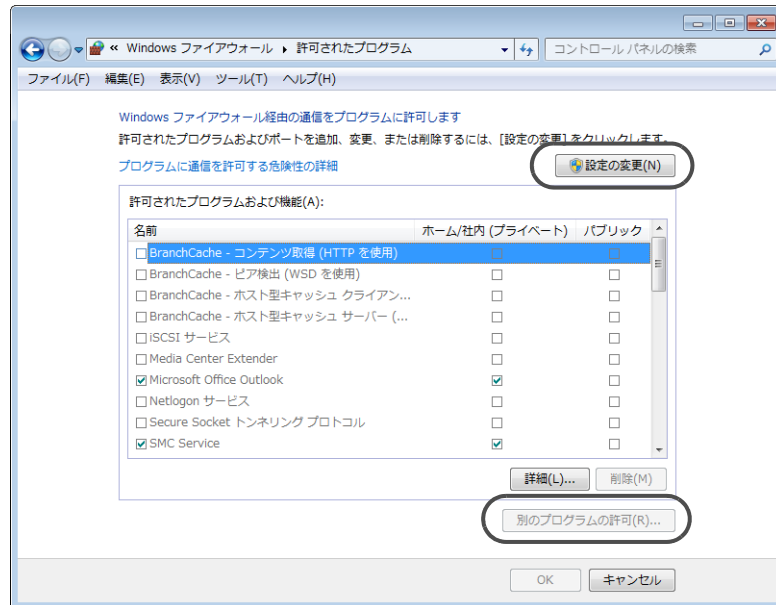
- [システムとセキュリティ]をクリックします。
- [Windows ファイアウォール]をクリックします。
- [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]をクリックします。



「許可されたプログラム」が表示されます。

5. [設定の変更]をクリックします。

[別のプログラムの許可]ボタンが有効になるので、このボタンをクリックします。



[プログラムの追加]が表示されます。

6. 最初に、「SQL Server」のプログラム「sqlservr.exe」の例外設定をします。 [プログラムの追加]ダイアログで[参照]ボタンをクリックします。



7. 「sqlservr.exe」を選択して[開く]ボタンをクリックします。

「sqlservr.exe」の場所は、＜プログラムの場所を確認する＞の手順 4 (P101)で確認した場所にあります。C ドライブにデータベースをインストールした場合、パスの例は次のとおりです。

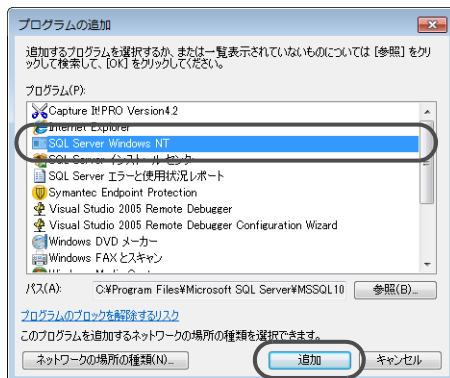
(SQL Server 2014)C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL12.YAYOI\MSSQL\Binn\sqlservr.exe

(SQL Server 2012)C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL11.YAYOI\MSSQL\Binn\sqlservr.exe

(SQL Server 2008 R2)C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10_50.YAYOI\MSSQL\Binn\sqlservr.exe

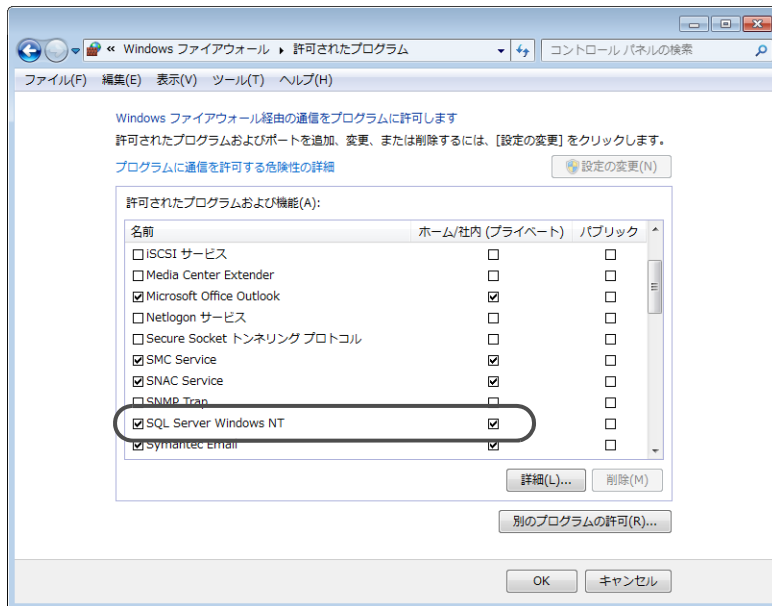
(SQL Server 2008)C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.YAYOI\MSSQL\Binn\sqlservr.exe

8. [プログラムの追加] ダイアログのプログラムの一覧に「SQL Server Windows NT」が追加されます。
「SQL Server Windows NT」を選択して[追加] ボタンをクリックします。



「許可されたプログラム」が表示されます。

9. 「許可されたプログラムおよび機能」に「SQL Server Windows NT」が追加され、チェックが付いていることを確認します。

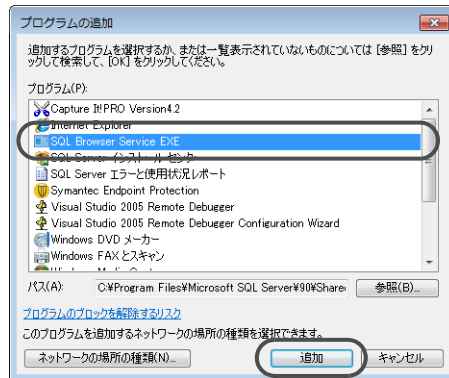


10. 次に、「SQL Server」のプログラム「sqlbrowser.exe」の例外設定をします。
[別のプログラムの許可] ボタンをクリックし、[プログラムの追加] ダイアログで[参照] ボタンをクリックします。

11. 「sqlbrowser.exe」を選択して[開く] ボタンをクリックします。
「sqlbrowser.exe」の場所は、<プログラムの場所を確認する>の手順 6 (P102) で確認した場所にあります。
例えば、SQL Server 2014 を C ドライブにインストールした場合は、
「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Shared\sqlbrowser.exe」(SQL Server 2014/2012/2008 R2/2008 の場合も同じ場所) となります。

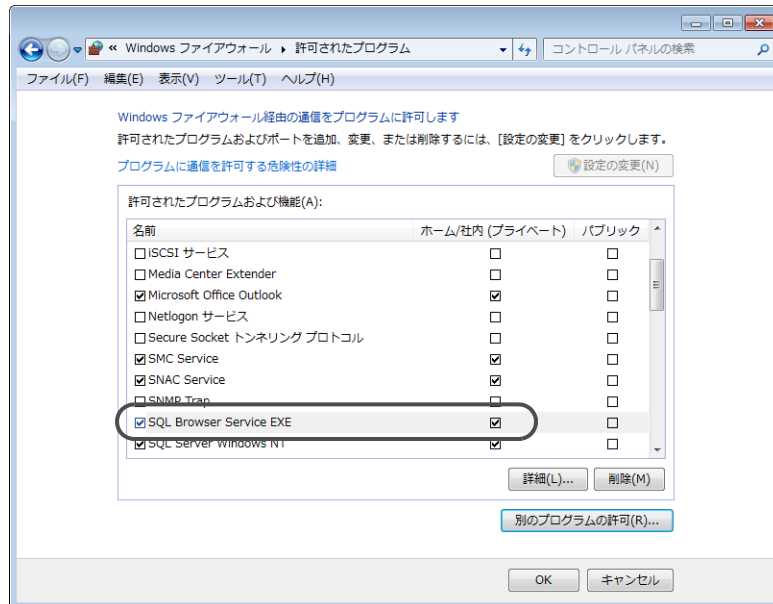
12. [プログラムの追加] ダイアログのプログラムの一覧に「SQL Browser Service EXE」が追加されます。

「SQL Browser Service EXE」を選択して [追加] ボタンをクリックします。



[許可されたプログラム]が表示されます。

13. [許可されたプログラムおよび機能]に「SQL Browser Service EXE」が追加され、チェックが付いていることを確認します。



別途ファイアウォールソフトをインストールしている場合

サーバーに Windows のファイアウォール機能以外に別途ファイアウォールソフトをインストールしている場合も同様に、「SQL Server」のプログラム「sqlservr.exe」と「sqlbrowser.exe」に例外許可を設定する必要があります。

方法については、ファイアウォールソフトの提供会社へご確認ください。

バックアップ用共有フォルダーの設定

バックアップファイルの作成と復元では、サーバーの次の共有フォルダー（「Backup」フォルダー）を一時的に使用しています。このフォルダーに共有名を設定し、バックアップを行うログインユーザーに共有フォルダーの「書き込み」「読み取り」「変更」ができるアクセス権限を設定する必要があります。

システムドライブが C ドライブの場合

- 共有フォルダー「C:¥ProgramData¥Yayoi¥Backup」
- 共有名「YAccBackup\$」

バックアップを行うログインユーザーにこのフォルダーへのアクセス権限がない場合はバックアップ処理がエラーになります。この場合は、このフォルダーのアクセス権限を確認してください。

なお、Windows のエクスプローラーで、共有フォルダーのパスを直接入力するとエラーが発生することがあります。その場合は、エクスプローラーで、上位のフォルダーから順番にたどって共有フォルダーにアクセスしてください。

<任意のフォルダーを共有フォルダーに設定する>

サーバーの設定を変更できず、上記の初期設定の「Backup」フォルダーのアクセス権限を許可できない場合は、サーバーの他の共有フォルダーをバックアップ先の共有フォルダーとして設定できます。



バックアップ用共有フォルダーの共有名を変更したときは

バックアップ用共有フォルダーの共有名を「YAccBackup\$」以外の名称に設定した場合、弥生販売でも共有名を設定する必要があります。設定の詳細は弥生販売のヘルプを参照してください。

→ヘルプ「バックアップ先の共有フォルダーの設定」

1-2 インストール中の設定の詳細

sa パスワードの指定後に必要な設定

指定した sa パスワードは、ご利用いただいているすべての弥生製品（弥生会計、弥生販売）でも設定する必要があります。各弥生製品の「サーバーの詳細設定」で設定することにより、データベースにアクセスすることが可能になります。

→データベースへの接続設定(P41)

sa パスワードの指定要件が異なる場合

データベースをインストールするコンピューターの環境によっては、sa パスワードを指定する要件が異なる場合があります。使用している環境でのパスワード指定要件は、ローカルセキュリティポリシーを確認してください。

<ローカルセキュリティポリシーの確認方法>

1. [ローカルセキュリティポリシー]ウィンドウを表示します。
Windows 10/8.1の場合：[スタート]ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[ファイル名を指定して実行]に「mmc.exe secpol.msc」と入力して[OK]ボタンをクリックします。
Windows7 の場合：[スタート]ボタンをクリックし、[プログラムとファイルの検索]に「mmc.exe secpol.msc」と入力し[Enter]キーを押します。
2. 画面左側の[セキュリティの設定]から、[アカウントポリシー]－[パスワードのポリシー]を選択します。
3. 画面右側でセキュリティ設定を確認します。
[パスワードは、複雑さの要件を満たす必要があるパスワード]

2 エラーが表示された場合の対処方法

インストールや製品使用時に表示されるエラーメッセージについて説明します。
表示されるメッセージは製品やお客さまの環境により、若干異なる場合があります。

2-1 インストール

- 「インストールを行うには、管理者権限が必要です。」と表示された場合

インストールには、ログオンしているユーザーに Windows の管理者権限が必要です。

管理者権限のあるユーザーでログオンをし、インストールを行ってください。

- 「YAYOI インスタンスが既に存在しているため、SQL Server 2014 Express のインストールは行いません。」と表示された場合

YAYOI インスタンスは弥生製品共通で使用しますので、弥生会計、弥生販売を使用している場合には、既に YAYOI インスタンスが存在していることがあります。この場合は、既に存在する YAYOI インスタンスをそのまま使用します。引き続き、製品をインストールします。

→既に SQL Server がインストールされている場合(P18)

- 「SQL Server 2005 以前のバージョンです。」と表示された場合

SQL Server 2005 は動作対応外です。SQL Server 2005 をご使用の場合は、SQL Server 2014 への移行を行ってください。

→SQL Server 2005 からの移行(P118)

2-2 データの新規作成／コンバート／製品の起動／バックアップなど

●「サーバーにアクセスできませんでした。」と表示された場合

いくつかの原因が考えられます。次の項目を上から順に確認してください。

確認項目	チェック欄
データベースがインストールされているか →インストールされているデータベースのバージョンの確認方法(P98)	
コンピューター名が変更されていないか(旧製品からご利用の場合のみ) →ネットワーク環境に関する注意(コンピューター名の変更)(P114)	
YAYOI インスタンスが起動しているか →YAYOI インスタンスの確認と実行方法(P117)	
sa パスワードの設定が適切に行われているか →データベースへの接続設定(P41) →ログインパスワード(sa パスワード)の設定(P46)	
ファイアウォールの設定が適切に行われているか →ファイアウォールの設定(P113)	
データを保存しているコンピューター(サーバー)へのアクセス権限が設定されているか(追加購入をされた場合のみ) →サーバーへのアクセス権限の確認(P114)	
SQL の設定が適切に行われているか →SQL Server ネットワークユーティリティの設定(P113) →SQL クライアント設定ユーティリティ(P115)	

●「既に同じ名前の事業所データが存在します。」と表示された場合

事業所データ名を同じ名前で作成することはできません。事業所データ名を変更してデータの作成またはコンバートを行ってください。

●「既に同名のユーザーがログインしているため、処理を実行できません。」と表示された場合

事業所データへは、同じユーザーで同時にログインすることはできません。複数のユーザーを登録することで、同時に複数のコンピューターから事業所データへ接続して、作業をすることができます。別のユーザーでログインするか、ユーザーの追加登録を行ってください。

→ヘルプ「ユーザーの登録」

● 「事業所データとの接続が失われました。」と表示された場合

データを保存しているコンピューター(サーバー)との接続が失われた場合に発生する現象です。次のような場合に、データを保存しているコンピューター(サーバー)との接続が失われます。

- データを保存しているコンピューター(サーバー)を再起動、シャットダウンした
- データを保存しているコンピューター(サーバー)が、スリープやスタンバイなどの状態になった

→省電力の設定(P113)

- 何らかの原因により、ネットワークの接続が切れた

この場合は、弥生製品を一度終了し、サーバーが起動していること、ネットワーク上でサーバーとの接続ができていることを確認し、再度、弥生製品を起動してください。

● 「事業所データのバックアップ中にエラーが発生しました。」と表示された場合

事業所データをバックアップする際に使用しているフォルダーにアクセス権限が必要です。

データを保存しているコンピューター(サーバー)で共有フォルダーの設定をします。

→バックアップ用共有フォルダーの設定(P106)**● 「バックアップファイルの復元中にエラーが発生しました。」と表示された場合**

事業所データのバックアップファイルを復元する際に使用しているフォルダーにアクセス権限が必要です。

データを保存しているコンピューター(サーバー)で共有フォルダーの設定をします。

→バックアップ用共有フォルダーの設定(P106)

9

付録

1 ネットワーク環境に関する注意	112
2 YAYOI インスタンスの確認と実行方法	117
3 SQL Server 2005 からの移行	118

1 ネットワーク環境に関する注意

＜弥生販売プロフェッショナルを追加購入した場合のみ＞

弥生製品を運用するネットワーク環境についての注意事項を記載します。自社のネットワーク環境を確認してください。

ネットワーク環境の変更や設定は、システムへ大きな影響を与える場合があります。設定方法などが不明な場合は、必ずシステム管理者に確認してください。

「サーバー」とは、弥生製品のデータを保存するコンピューターを指します。「クライアント」とは、弥生製品を操作するコンピューターを指します。システム構成については「追加購入時のシステム構成」(P94)を参照してください。

環境や設定を確認するために、次の項目をチェックリスト代わりにご利用ください。問題がなければボックス ☐ に、チェック ☒ を入れます。

1-1 ネットワーク(LAN)環境について

弥生製品では常に事業所データと接続し、入力した取引などを保存するため、安定したネットワーク環境で運用してください。

☐ 通信速度について

10Base-T 以上のネットワーク環境で運用してください。

☐ 無線 LAN について

無線LANの環境はネットワークの接続が不安定でデータ破損の原因になります。有線 LAN の環境で運用してください。

☐ DNS について

弥生製品を運用するコンピューターは、すべて同一の DNS に接続されている必要があります。また、DNS サーバーに関しても PING コマンドが正しく実行できる必要があります。DNS が有効になっていない場合は正しく運用できないことがあります。DNS が存在しない場合、各クライアントの hosts ファイルを適切に設定する必要があります。

☐ コンピューターのセグメント

サーバーとクライアントコンピューターのセグメントが異なる場合は、弥生製品からサーバーを参照することはできません。サーバーとクライアントコンピューターは同じセグメントで運用してください。

☐ その他のネットワークに関する注意

ネットワークハブが過度にカスケード接続されている場合は正しく運用できない場合があります。そのため、このようなネットワーク構成では使用しないでください。

□ IP アドレスの割り当て

ルーターの DHCP 機能を使い、IP アドレスを自動割り当てしている場合は基本的に問題ありませんが、IP アドレスを手動で割り当てている場合は、複数のコンピューターに同一の IP アドレスが重複して割り当てられていないかなどに注意してください。適切に IP アドレスが割り当てられていない場合は正しく運用できません。

□ ネットワーク経路の確認

弥生製品を運用するコンピューター間で PING コマンドを実行した際に正しく動作するネットワーク環境であることを確認してください。

PING コマンド: コマンドプロンプトから実行できるコマンドで、指定した IP アドレスを持ったコンピューターに対してネットワークの疎通を確認するコマンド

□ ルーターでの接続

ネットワーク上に複数のルーターが存在している場合、異なるルーターに接続されたコンピューター間では、弥生製品を正しく運用できないことがあります。同一のルーターに接続されているコンピューター間で使用してください。

また、ルーターの設定によって、データへのアクセスが遮断されることがあります。サーバーの IP アドレスを固定するなど、アクセスが遮断されないための対応をしてください。

1-2 データベースをインストールしたコンピューターの設定

□ SQL Server ネットワークユーティリティの設定

SQL Server 2014/2012/2008 R2/2008 では SQL Server Configuration Manager (SQL Server 構成マネージャー) で確認できる設定にある「有効になっているプロトコル」に TCP/IP が入っていない場合は、正しく動作しないことがあります (通常は初期設定されています)。

□ 省電力の設定

弥生製品の起動中に、サーバーが「スリープ」や「スタンバイ」などの状態になると「事業所データとの接続が失われました」などのエラーメッセージが表示されます。サーバーの省電力の設定で「スリープ」や「スタンバイ」などの設定をしている場合は弥生製品を正しく運用できない場合があります。

→「事業所データとの接続が失われました。」と表示された場合(P110)

□ ファイアウォールの設定

ファイアウォール機能の制御により通信が遮断されていると、「サーバー／フォルダーにアクセスできませんでした。」などのエラーメッセージが表示されてデータが開けません。この場合は、サーバー側のコンピューターのファイアウォール機能で、「SQL Server」の通信を許可する必要があります。

→ファイアウォールの設定(P99)

→別途ファイアウォールソフトをインストールしている場合(P105)

□ コンピューター名の変更

コンピューター名を変更すると、SQL Server のすべてのインスタンスは使用できなくなります。

コンピューター名の変更はシステムへ大きな影響を与えるだけではなく、SQL Server を使用している他のソフトウェアが使用できなくなるなどの場合があります。コンピューター名を変更する前にシステム管理者に確認してください。

コンピューター名を変更する場合は、次の手順で YAYOI インスタンスのデータを移行してください。



データベース(YAYOI インスタンス)の削除

データベース(YAYOI インスタンス)を削除すると、データベース(YAYOI インスタンス)に保存されているすべてのデータが削除され、元に戻すことはできません。

1. YAYOI インスタンスのすべてのデータをバックアップ
一括バックアップツールを使うと YAYOI インスタンスのデータを一括してバックアップできます。
2. YAYOI インスタンスの停止
3. YAYOI インスタンスを削除
4. コンピューター名の変更
5. データベース(YAYOI インスタンス)を再インストール
6. 手順 1 で作成したバックアップファイルを復元

□ ユーザーアカウントの設定

ワークグループを使用しているなど、ドメイン管理がされていない場合は、サーバーにアクセスする Windows のユーザーアカウントを、サーバーで設定する必要があります。

□ サーバーへのアクセス権限の確認

クライアントコンピューター(他のコンピューター)から新規データを保存したり、作成したデータにアクセスしたりするには、サーバーの「書き込み」「読み取り」「変更」のアクセス権限が必要です。

※ サーバーへのアクセス権限の設定方法は、ネットワークの構成により異なります。ネットワーク管理者にご確認ください。

共有フォルダーのアクセス権限の確認

バックアップファイルの作成と復元では、サーバー(データベースをインストールしたコンピューター)の次のバックアップ用の共有フォルダー(「Backup」フォルダー)を一時的に使用しています。

この共有フォルダーの設定が行われていないとバックアップファイルの作成と復元ができません。

サーバーにアクセスしてバックアップファイルの作成や復元を行うには、クライアントコンピューター(他のコンピューター)のログインユーザーに、バックアップ用の共有フォルダー(「Backup」フォルダー)へのアクセス権限が必要です。アクセス権限の設定方法は、ネットワーク管理者にご確認ください。

< システムドライブが C ドライブの場合 >

「C:¥ProgramData¥Yayoi¥Backup」

1-3 ネットワーク上のコンピューターの設定について

ドメインの使用

ドメインを使用する場合、すべてのコンピューターが同一のドメインに属している必要があります。異なるドメインに属するコンピューターから、別のコンピューターに保存されている事業所データをバックアップしようとした場合は、ユーザーのログインに関するエラーが発生する場合があります。そのような場合には、バックアップを実行しようとしたコンピューターからデータベースがインストールされているコンピューターを Windows のエクスプローラーで参照し、ユーザーとパスワード認証によるログインをする必要があります。この作業は、どちらかのコンピューターを再起動するたびに行う必要があります。

互いのコンピューターが検索で見つけられる

事業所データの「バックアップ」や「バックアップの復元」は、データベース の機能だけでなく、Windows のファイル共有も使用して行います。そのため、互いのコンピューターが、Windows の検索機能で検索できるコンピューターでない場合は正しく動作しません。

SQL クライアント設定ユーティリティ

cliconfg.exe で確認できる「プロトコルが有効になる順序」の最上位が TCP/IP になっている必要があります。

cliconfg.exe で「プロトコルの暗号化を設定する」にチェックが入っている場合はインストールができません。設定の変更についてはシステム管理者にご相談ください。

1-4 データベースについて

データベースの削除

データベース(YAYOI インスタンス)を削除すると、データベース(YAYOI インスタンス)に保存されているすべてのデータが削除され、元に戻すことはできません。

復元先の SQL Server のバージョン

バックアップファイルは、バックアップ元の SQL Server のバージョンよりも古いバージョンの SQL Server には復元できません。バックアップ元の SQL Server よりも新しいバージョンの SQL Server に復元することはできます。例えば SQL Server 2014 で作成したバックアップファイルは、SQL Server 2012 には復元できません。SQL Server 2012 のバックアップファイルは、SQL Server 2014 に復元できます。

2 YAYOI インスタンスの確認と実行方法

インストールした YAYOI インスタンスが起動しているかを確認します。通常は、コンピュータの起動時に実行されます。

👉 YAYOI インスタンスを実行する

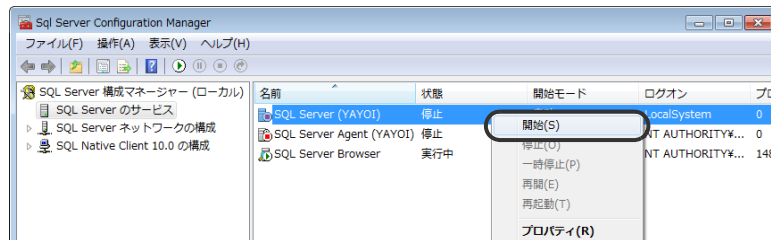
1. [SQL Server Configuration Manager]を表示します。

Windows 10/8.1 の場合: [スタート] ボタンからすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server 2014(または 2012、2008 R2、2008)] – [SQL Server 構成マネージャー] (または [SQL Server Configuration Manager]) をクリックします。

Windows 7 の場合: [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] – [Microsoft SQL Server 2014(または 2012、2008 R2、2008)] – [構成ツール] – [SQL Server 構成マネージャー] (または [SQL Server Configuration Manager]) をクリックします。

2. 「SQL Server のサービス」を選択し、右側で「SQL Server(YAYOI)」の[状態]が「実行中」であることを確認します。

「停止」になっている場合は、「SQL Server(YAYOI)」で右クリックし、表示されたメニューから[開始]をクリックします。



3 SQL Server 2005 からの移行

SQL Server 2005 は、動作対応外です。SQL Server 2005 をご使用の場合は、下記の手順に従って SQL Server 2014 への移行を行ってください。

なお、SQL Server 2005 がインストールされている状態では、SQL Server 2014はインストールできません。データベース(YAYOIインスタンス)のデータをバックアップしてから SQL Server 2005 を削除し、SQL Server 2014 へ移行してください。

移行前にはインストール先ドライブの空き容量を確保してから作業を行ってください。移行作業は、お客さまの環境により時間がかかる場合があります。

1. データベース(YAYOI インスタンス)のデータをバックアップします。

YAYOI インスタンスにある弥生製品(弥生会計、弥生販売)の全データをバックアップします。一括バックアップツールを使用すると、YAYOI インスタンスにある弥生製品の全データを一括でバックアップすることができます。一括バックアップツールの操作方法については、弥生販売を起動して弥生販売のヘルプを参照してください。

2. データベース(YAYOI インスタンス)を削除します。

以前のバージョンの YAYOI インスタンスを削除します。

YAYOI インスタンスを削除すると、データベースに保存されているすべてのデータが削除され元に戻すことはできません。

→SQL Server 2005 のデータベースの削除(P92)



弥生販売以外の弥生製品をご使用の場合

YAYOI インスタンスは、弥生販売だけでなく、弥生会計ネットワーク、プロフェッショナル 2 ユーザー、AE でも使用します。バックアップの際に一括バックアップツールを使用しなかった場合は、弥生会計ネットワーク、プロフェッショナル 2 ユーザー、AE でのバックアップを必ず行ってください。また、SQL Server 2014 への移行を行う前に、YAYOI インスタンスを使用する他の製品が SQL Server 2014 に対応していること、移行に際してライセンスなどに問題がないことをご確認ください。

対応していない製品がある場合や問題がある場合は、対応製品へのバージョンアップや、インストールするコンピューターの変更を検討してください。

3. 弥生販売 19 をインストールします。

弥生販売 19 の DVD-ROM から、弥生販売 19 をインストールします。

弥生販売 19 をインストールすると、SQL Server 2014 Express もインストールされます。

→弥生販売のインストール(P22)

4. YAYOI インスタンスにデータを復元します。

手順 1 で作成したバックアップファイルを復元します。バックアップに一括バックアップツールを使用した場合は、弥生製品の全データを一括で復元することができます。一括バックアップツールの操作方法については、弥生販売を起動して弥生販売のヘルプを参照してください。

弥生販売 19 プロフェッショナル 弥生販売 19 スタンダード インストール・コンバートマニュアル

- ・ 初版 2018 年 8 月 27 日
- ・ 発行所 弥生株式会社
〒101-0021
東京都千代田区外神田 4 丁目 14 番 1 号
秋葉原 UDX21 階
www.yayoi-kk.co.jp
- ・ ご注意
 - ① 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
 - ② 本書の内容に関しては訂正・改善のため、将来予告なしに変更することがあります。
 - ③ 落丁、乱丁はお取り替えいたします。

Copyright © 2018 Yayoi Co., Ltd. All rights reserved.